

除雪機械点検要項

昭和 53 年 10 月

社団法人 日本建設機械化協会
北陸支部

まえがき

近年の除雪作業は年々機械化が進み、除雪機械及びオペレータの存在は重要なものとなっています。しかし、除雪機械の取扱い、保守の面からみると未だ不十分な点も多く、ひいては除雪作業の効率低下の大きな要因ともなっています。

そこで、現場において、充分実施可能な作業点検、取扱い上の注意事項を明示し、各現場に浸透するよう本要領を作成したものです。

本要項は最小限の事項のみに限定したため、必ずしも十分なものではないと思われませんが、実施に当っては、メーカーの取扱い説明書等を一読する必要があります。

なお、本要領は施工部会除雪委員会のメンバーにより作成されたものであります。

除雪機械の運営に関し、その一助となれば幸いです。

目 次

I. 仕業点検表

ロータリ除雪車 (H T R41)	1
〃 (H T R200)	2
〃 (N R651・N R651 S)	3
〃 (N R652・N R652 S)	4
〃 (N R 653)	5
〃 (R 500 B・R500 C).....	6
スノーローダ (N R 451)	7
除雪トラック.....	8
除雪グレーダ.....	9
除雪ドーザ・スノーローダ (履帯式)	10
〃 (車輪式)	11
凍結防止剤散布車.....	12

II. 定期点検表

ロータリ除雪車 (H T R41)	13
〃 (H T R 200)	15
〃 (N R651・N R651 S)	17
〃 (N R652・N R652 S)	19

ロータリ除雪車 (NR 653)	21
〃 (R500B・R500C).....	22
スノーローダ (NR 451)	23
除雪トラック.....	24
除雪グレーダ.....	26
除雪ドーザ・スノーローダ (履帯式)	27
(車輪式)	28
凍結防止剤散布車.....	29

Ⅲ. 取扱い上の注意事項

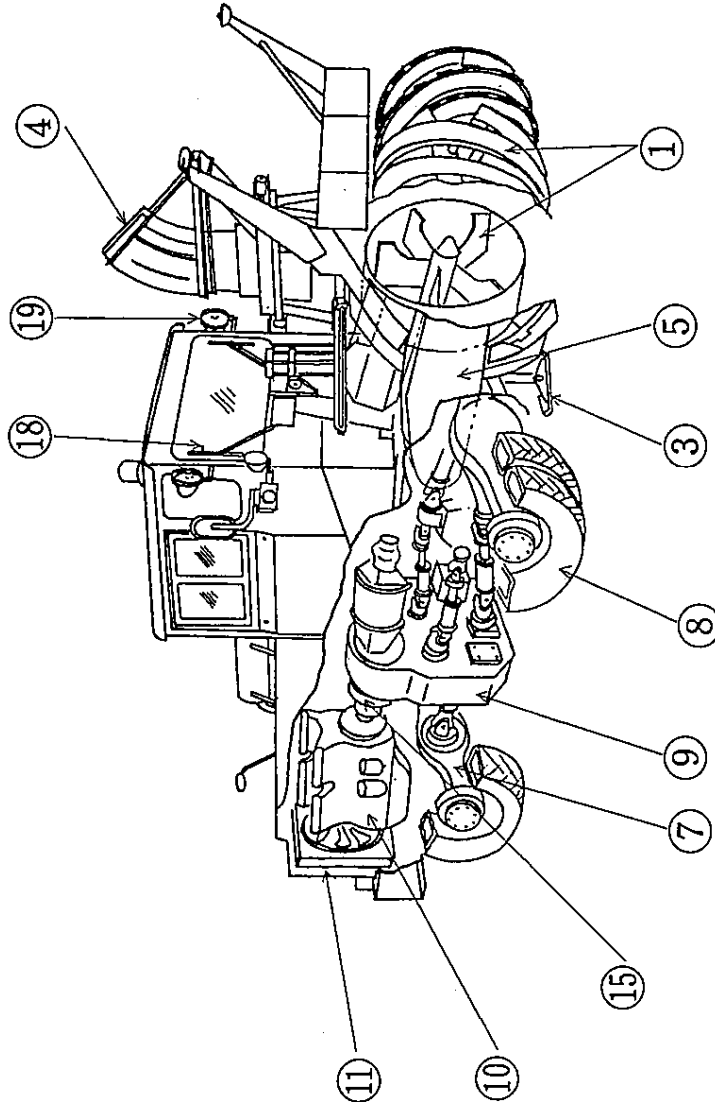
1. ロータリ除雪車 (HTR41)	31
2. 〃 (HTR 200)	31
3. 〃 (NR651・NR651S)	32
4. 〃 (NR652・NR652S)	34
5. 〃 (NR 653)	35
6. 〃 (R500B・R500C).....	36
7. スノーローダ (NR 451)	37
8. 除雪トラック.....	38
9. 除雪グレーダ.....	39
10. 除雪ドーザ・スノーローダ (履帯式・車輪式)	40
11. 〃 (車輪式)	40
12. 凍結防止剤散布車.....	40

I. 仕業点検表

ロータリ除雪車(HTR41)仕業点検表

機械番号		
点検年月日		
点検者氏名		

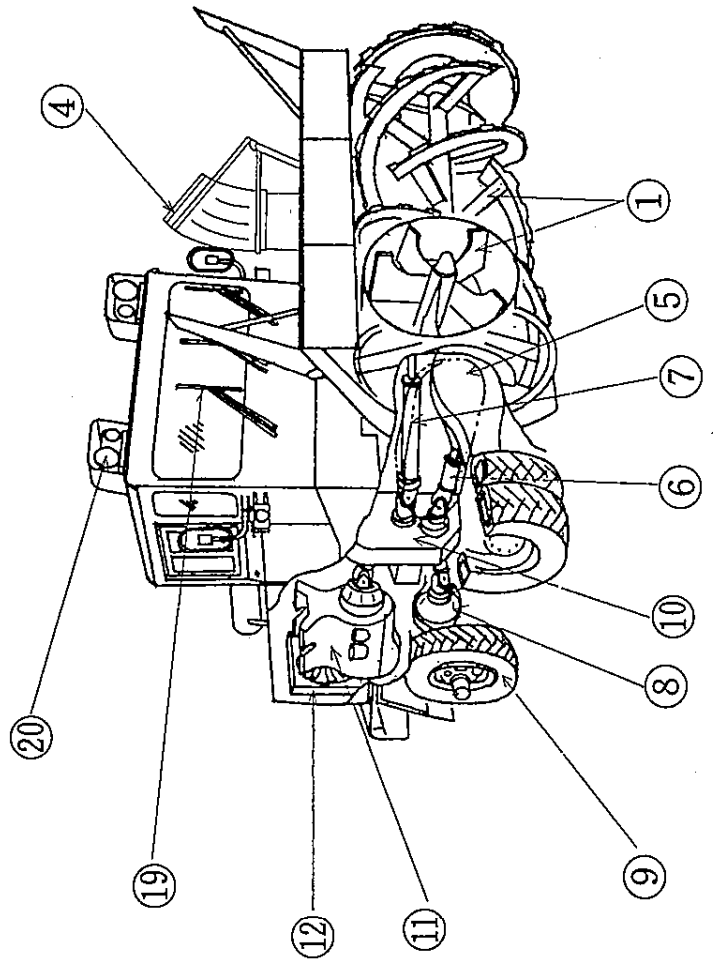
No.	点検箇所	状態	体																			その他																																																														
			作業装置			本体			駆動機			変速機			エンジン			ラジエータ			フアンベルト			油圧系統			ステアリング機構			クラッチ系統			主ブレーキ			駐車ブレーキ			計測器類			各種灯具関係																																										
1	オーガ・プロア	損傷	亀裂	1	2	キャッチングエッジ	摩擦	消耗	2	3	チェーン(そり)	摩擦	消耗	3	4	チェーン	危険	亀裂	4	5	チェーン伝動機	油もれ	5	6	伝動機	油もれ	6	7	デフレンシャル	油もれ	7	8	タイヤ	損傷	空気圧	8	9	タイヤチェーン	摩擦	消耗	9	10	エンジン	油もれ	10	11	ラジエータ	水もれ	11	12	フアンベルト	摩	消耗	12	13	油圧系統	油もれ	13	14	ステアリング機構	油もれ	14	15	クラッチ系統	油もれ	15	16	主ブレーキ	液漏	16	17	駐車ブレーキ	引代	17	18	計測器類	機能	18	19	各種灯具関係	機能	19	その他	復元されているか 項目は完全に修 前日の不具合の



口一タリ除雪車(HTR200)作業点検表

機械番号		
点検年月日		
点検者氏名		

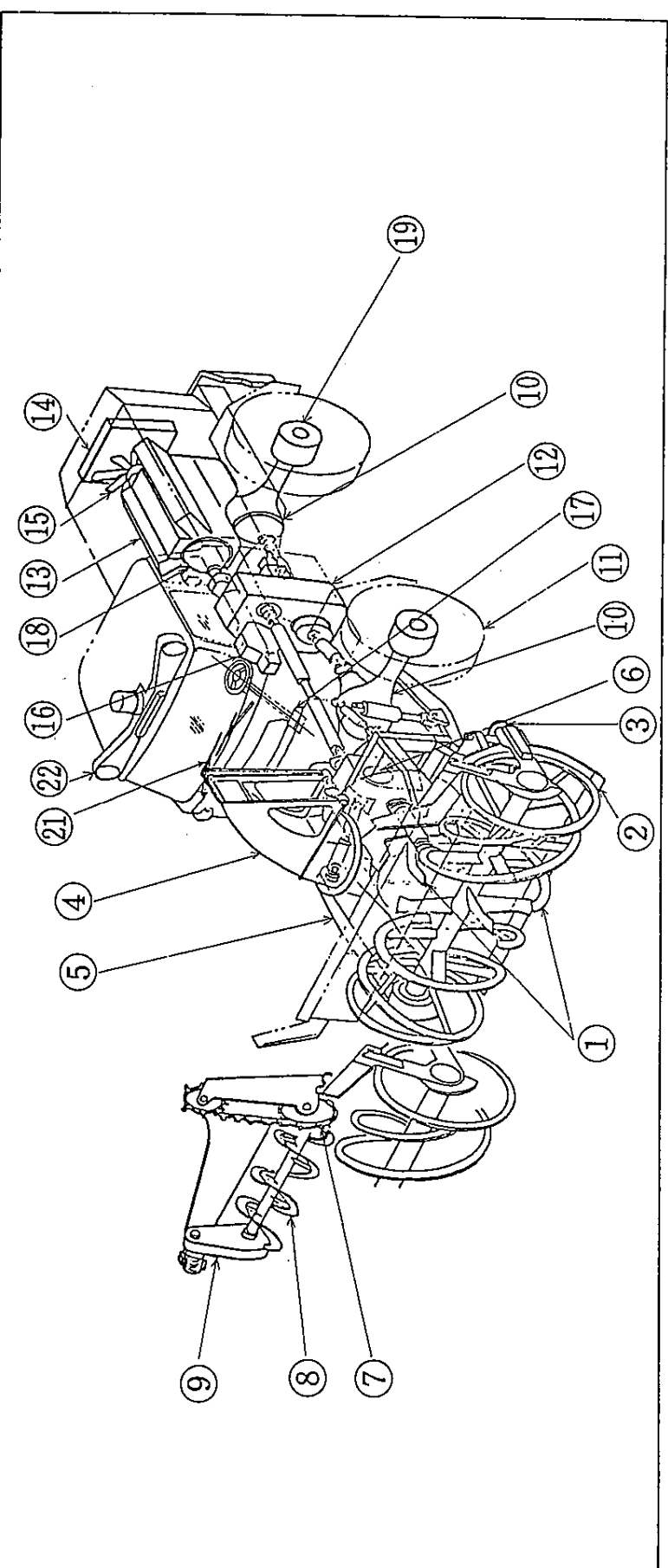
No.	作業装置					本体					その他										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
点検箇所	オーガ・プロア	カッピングエッジ (ボルト)	シユー(そり)	シユート	チェーン伝動機	オーガ減速機	フロア減速機	デフレンシャル	タイヤ	タイヤチェーン	動力分配機	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計ワクシヨ イパ 器 類	各種灯具関係
状態	損傷	摩ゆる	摩	亀裂	油漏れ	油漏れ	油漏れ	油漏れ	損傷	摩ゆる	油漏れ	水漏れ	摩ゆる	油漏れ	油漏れ	油遊がもれ	摩	引き代	摩	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の	
チェック																					



機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

ロータリ除雪車(NR652・NR652S)作業点検表

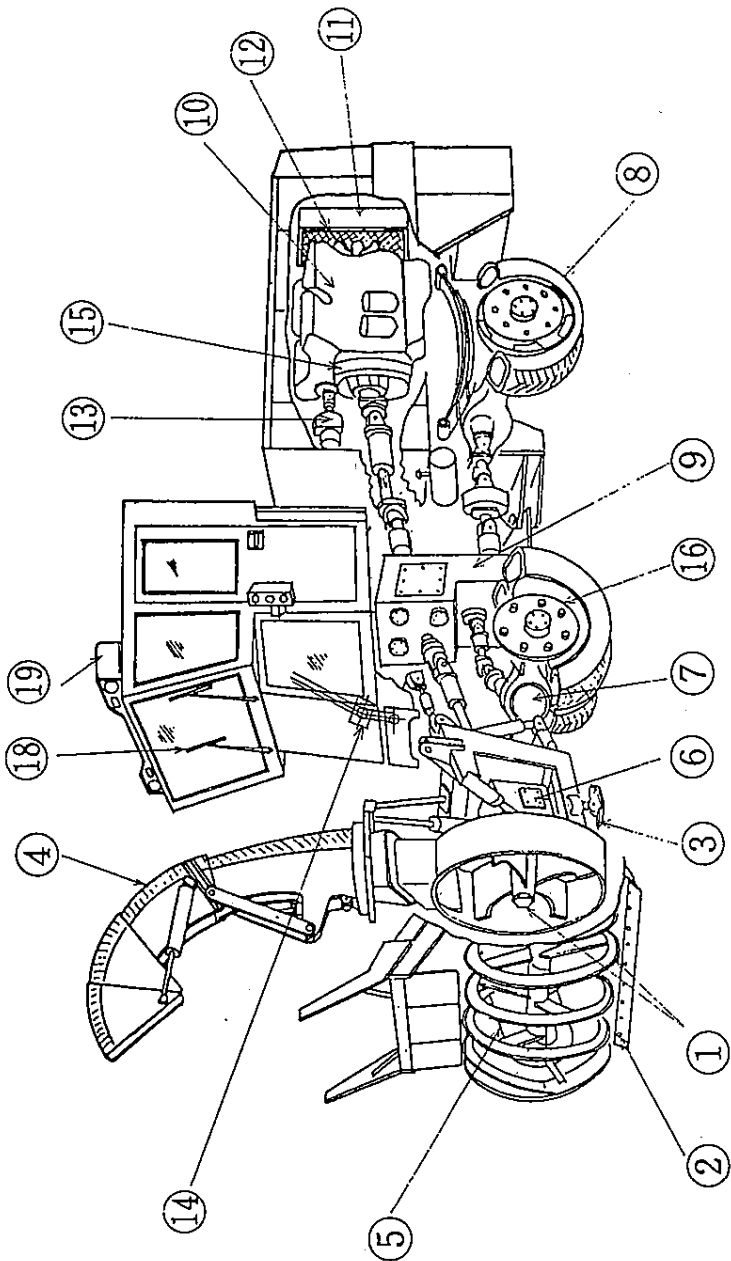
No.	作業装置		本体										その他											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
	オーガ・プロア	カッティングエッジ(ボルト)	シュー(そり)	シュー	チェーン伝動機	プロア減速機	チェーンソー	チェーンケース	チェーンケース	デフレンシャル	タイヤ	タイヤチェーン	動力分配機	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器パネ	各種灯具関係	
点検箇所	損傷	摩ゆる	摩	亀裂	油もれ	油もれ	ゆるみ	油もれ	油もれ	油もれ	損傷	摩ゆる	油もれ	油もれ	水もれ	摩ゆる	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ
状態	損傷	摩ゆる	摩	亀裂	油もれ	油もれ	ゆるみ	損傷	油もれ	油もれ	損傷	摩ゆる	油もれ	油もれ	水もれ	摩ゆる	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ
チェック																								
備考	回復されているか 前日の不具合の 項目は完全に修 復されているか																							



機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

ロータリ除雪車 (NR653) 作業点検表

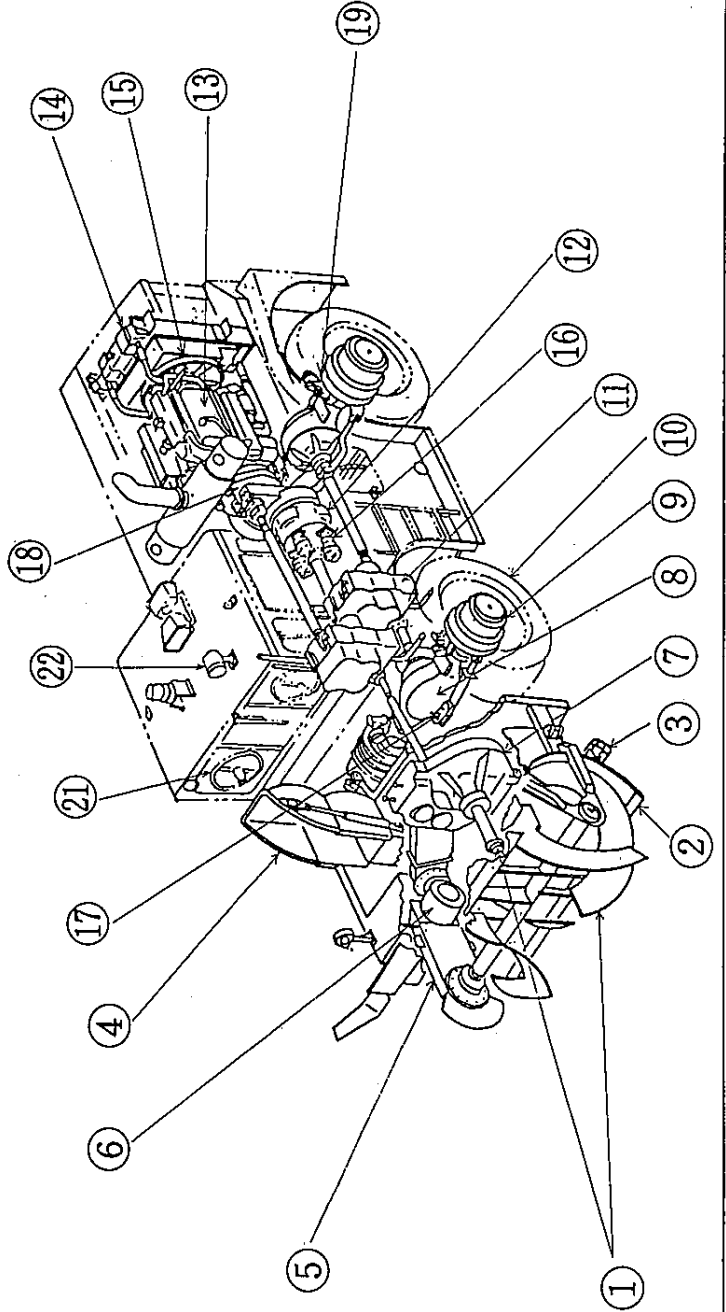
No.	点検箇所	状態	作業装置										その他											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	13	14	15	16	17	18	19		
1	オーガ・プロア	損傷 破裂																						復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
2	カッティングエッジ (ボルト)	摩 擦 消耗																						
3	チェーン	摩 擦 消耗																						
4	シユート	亀 裂																						
5	チェーン伝動機	油 も れ																						
6	プロア減速機	油 も れ																						
7	デフレンシャル	油 も れ																						
8	タイヤ	損傷 空気 圧 低下																						
9	動力分配機	油 も れ																						
10	エンジン	油 も れ																						
11	ラジエータ	水 も れ																						
12	ファンベルト	摩 擦 消耗																						
13	油圧系統	油 も れ																						
14	ステアリング機構	油 も れ																						
15	クラッチ系統	油 も れ																						
16	主ブレーキ	油 も れ																						
17	駐車ブレーキ	引 き 代																						
18	計測器 クラクション	機 能																						
19	各種灯具関係	機 能																						



ロータリ除雪車 (R 500 B・R 500 C) 作業点検表

機械番号	点検年月日	点検者氏名

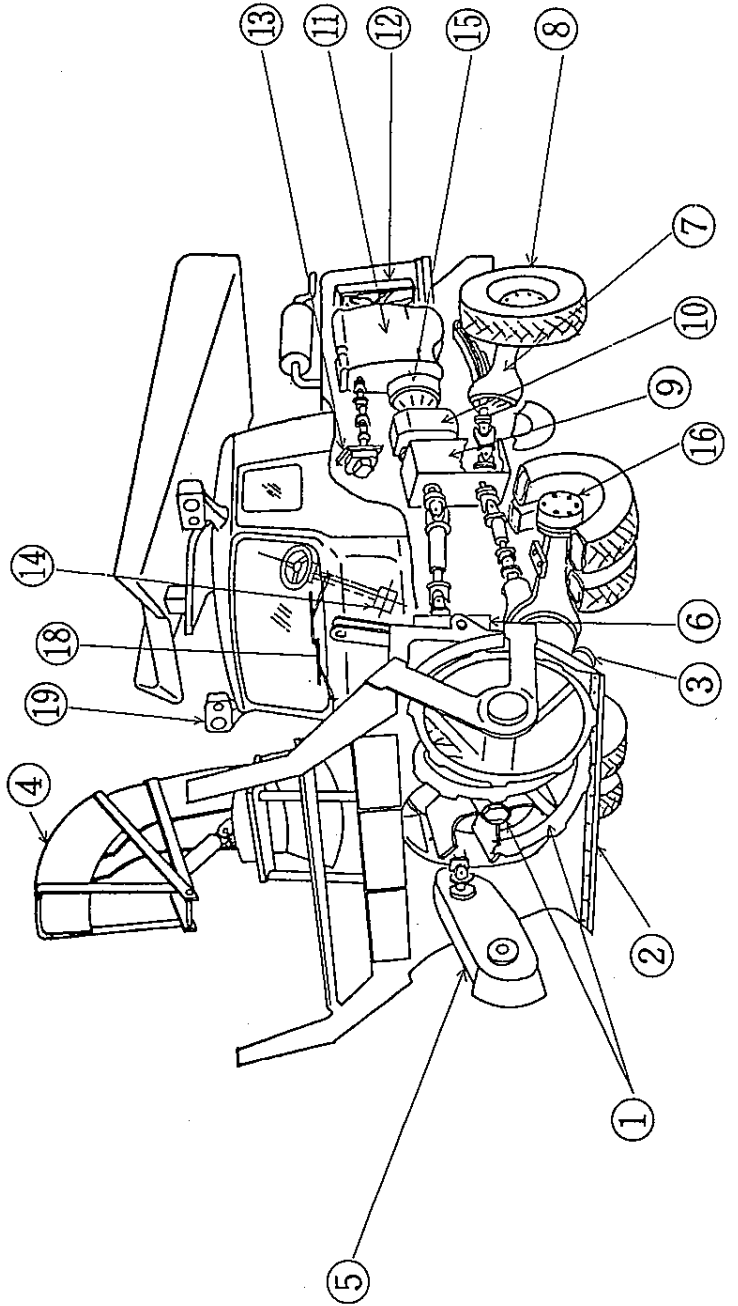
No.	作業装置				本体											その他									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	その他		
	オーガ・プロア	カツチングエッジ (ボルト)	シュー(そり)	シュー	チェーン伝動機	オーガ減速機	プロア減速機	デフアレンシャル	ブレーットキャリア	タイヤ	タイヤチェーン	トランスミッション	トルクコンバータ	トルクデバイダ	エンジン	ラジエータ	油圧系統	ファンベルト	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計ワクラクシヨーン 器パノイ	各種灯具関係	復 さ れ て い る か
	損傷	摩擦	亀裂	亀裂	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ	損傷	摩擦	油もれ	油もれ	油もれ	水もれ	摩耗	油ゆるみ	油ゆるみ	油遊が重 もれ	踏み代	液量	引き代	機能	機能	前日の不具合の



スノーローダ(NR451)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

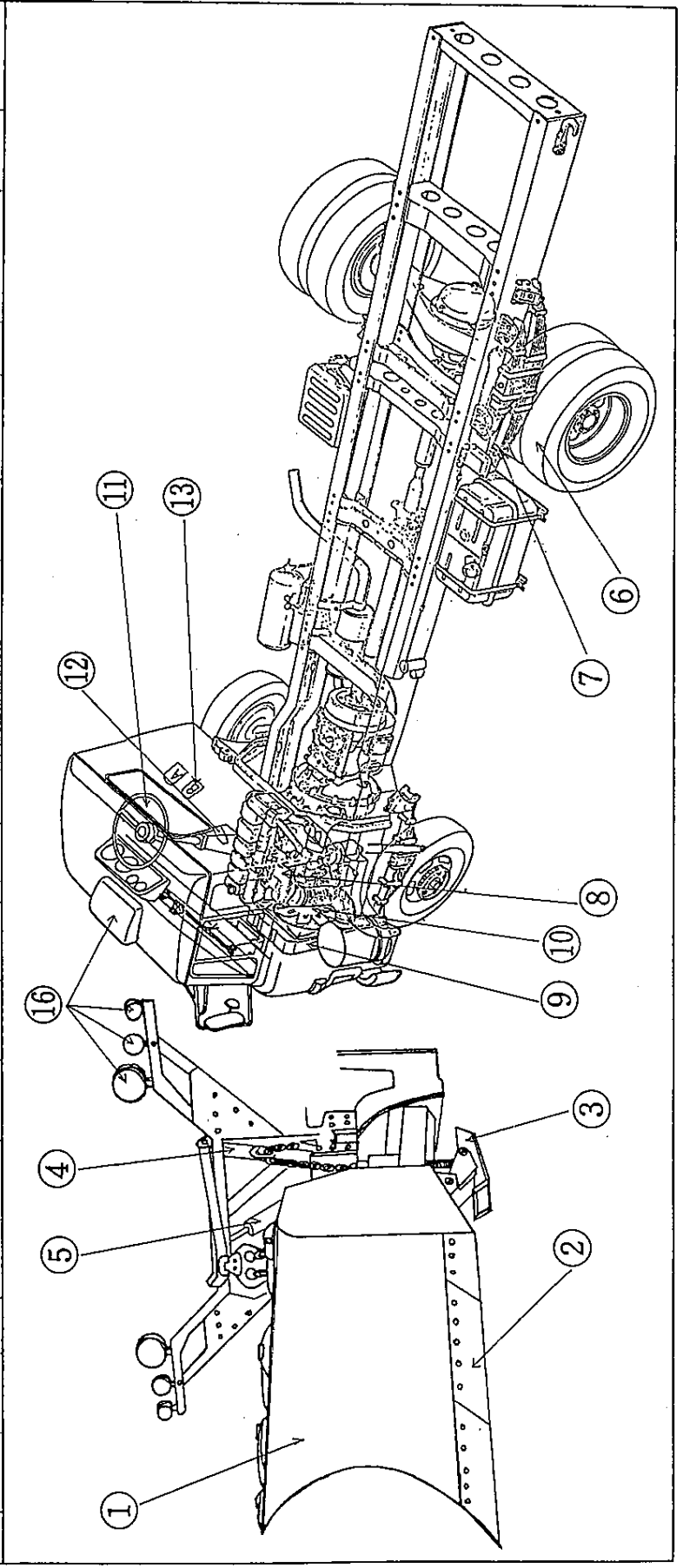
No.	点検箇所	状態	作業装置										その他										
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	13	14	15	16	17	18	19	
1	オーガ・フロア	損傷	亀裂																				復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
2	カッピングエンジン (ボルト)	摩ゆ	磨																				
3	シユール(そり)	摩	耗																				
4	シユール	亀	裂																				
5	チェーン伝動機	油	油																				
6	フロア減速機	油	油																				
7	デフレンシャル ケース	油	油																				
8	タイヤ	損	損																				
	タイヤ	磨	磨																				
9	動力分配機	油	油																				
10	トランスミッション	油	油																				
11	エンジン	油	油																				
12	ラジエータ	水	水																				
13	ファンベルト	摩	摩																				
14	ステアリング機構	油	油																				
15	クラッチ系統	機	機																				
16	主ブレーキ	踏	踏																				
	主ブレーキ	液	液																				
17	駐車ブレーキ	引	引																				
18	計器 イパネ	機	機																				
19	各種灯具関係	機	機																				



除雪トラック作業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

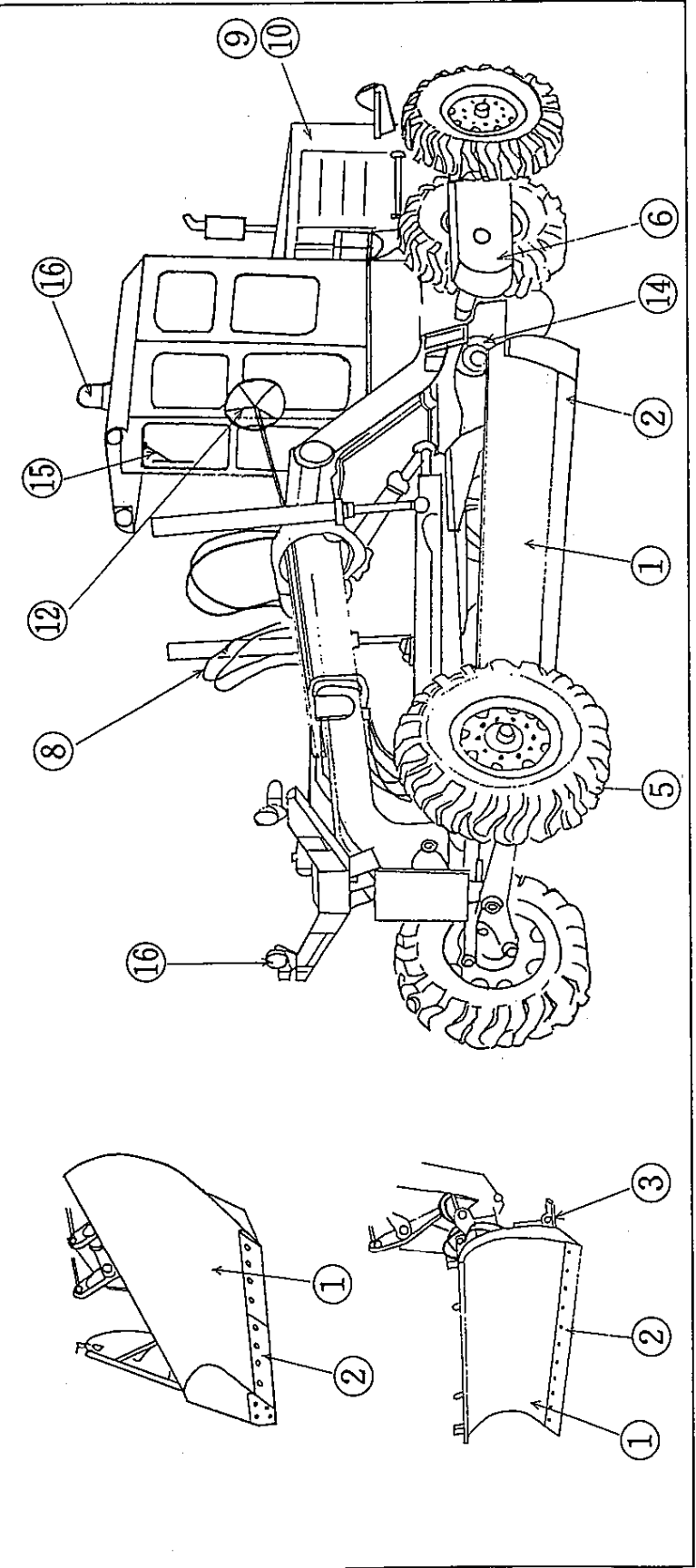
No.	作業装置		本体		その他	
	点検箇所	状態	点検箇所	状態	点検箇所	状態
1	除雪プラウ	損傷 亀裂	1	エンジン	油もれ 油量	
2	カッピングエッジ (ボルト)	摩 消耗	2	シャシスプリング	切 損	
3	シム（そり）	摩 消耗	3	タイヤチエン	摩 消耗	
4	保持装置	損 傷	4	タイヤ	損 傷	
5	油圧系統	油もれ 油量	5	フアンベルト	摩 消耗	
6	タイヤ	損 傷	6	ステアリング機構	油 漏れ	
7	タイヤチエン	摩 消耗	7	クラッチ系統	踏 み代	
8	エンジン	油もれ 油量	8	主ブレーキ	液 漏れ	
9	ラジエータ	水もれ 量	9	各種灯具関係	機 能	
10	フアンベルト	摩 消耗	10	計器 パネ 類	機 能	
11	ステアリング機構	油 漏れ	11	駐車ブレーキ	引 き代	
12	クラッチ系統	踏 み代	12	主ブレーキ	踏 み代	
13	主ブレーキ	液 漏れ	13	各種灯具関係	機 能	
14	駐車ブレーキ	引 き代	14	計器 パネ 類	機 能	
15	計器 パネ 類	機 能	15	各種灯具関係	機 能	
16	各種灯具関係	機 能	16	計器 パネ 類	機 能	



除雪グレーダ作業点検表

機械番号	点検年月日	点検者氏名

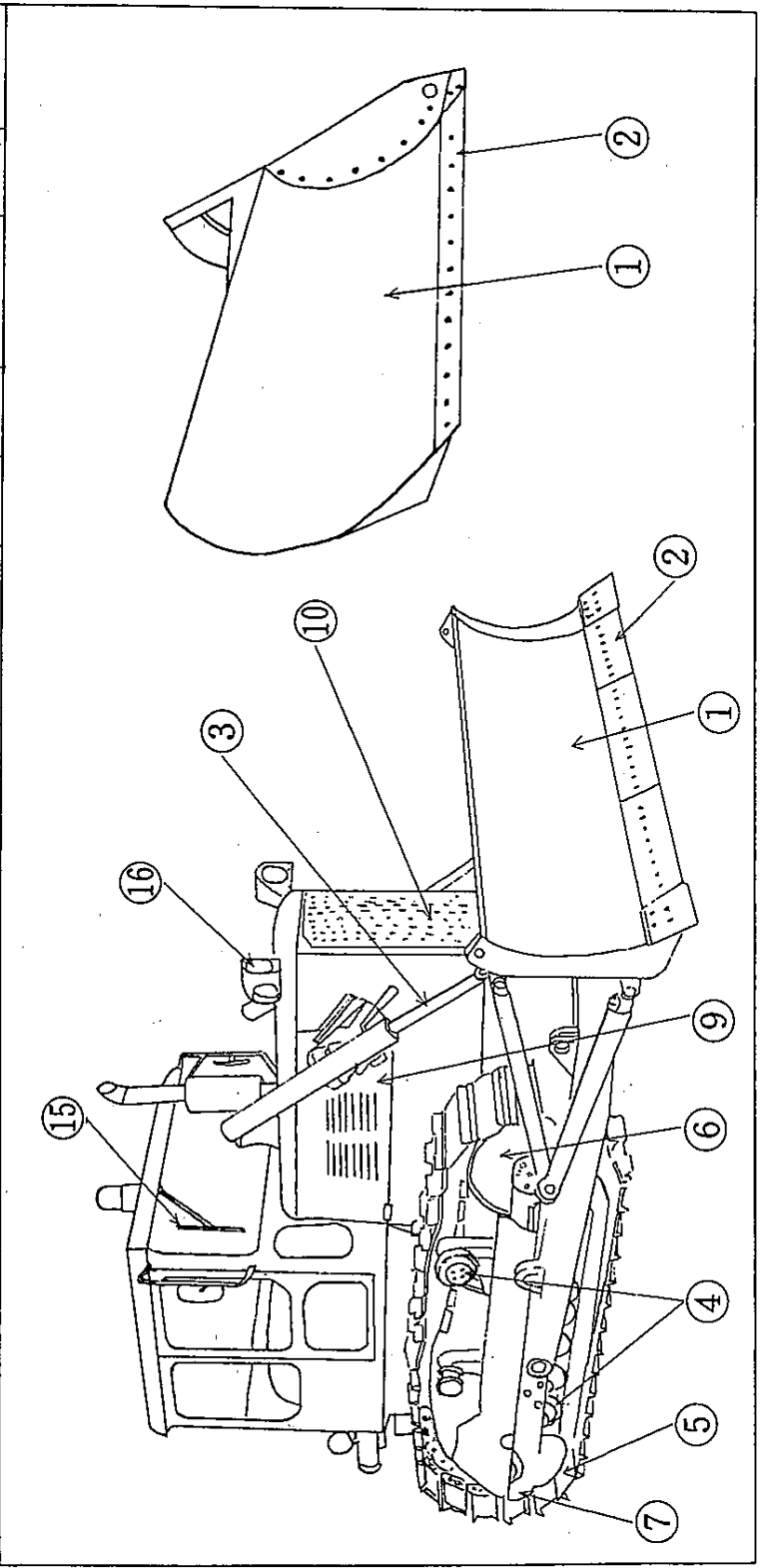
No.	点検箇所	状態	チェック	本体												その他						
				作業装置	体										16							
1	除雪装置	損亀裂		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	各種灯具関係	機能	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
2	カッシングエンジン	摩ゆるみ		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	計ワクラクションイ器パノ類	機能		
3	シユ一(ネリ)	摩耗		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	駐車ブレーキ	引き代		
4	油圧系統	油もれ		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	主ブレーキ	踏み代		
5	タイヤ	損空気圧		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	ステアリング機構	液まきもれ		
6	タイヤチエン	摩ゆるみ		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	フアンベルト	踏み代		
7	タンデムケース	油もれ		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	ラジエータ	水もれ		
8	トランスミッション	油もれ		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	エンジン	油もれ		
9	油圧系統	損油もれ		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		
10	スタブ	損傷		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		
11	スタブ	損傷		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		
12	スタブ	損傷		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		
13	スタブ	損傷		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		
14	スタブ	損傷		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		
15	スタブ	損傷		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		
16	スタブ	損傷		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	油圧系統	損油もれ		



除雪ドーザー・スノーローダ(履带式)仕業点検表

機械番号		
点検年月日		
点検者氏名		

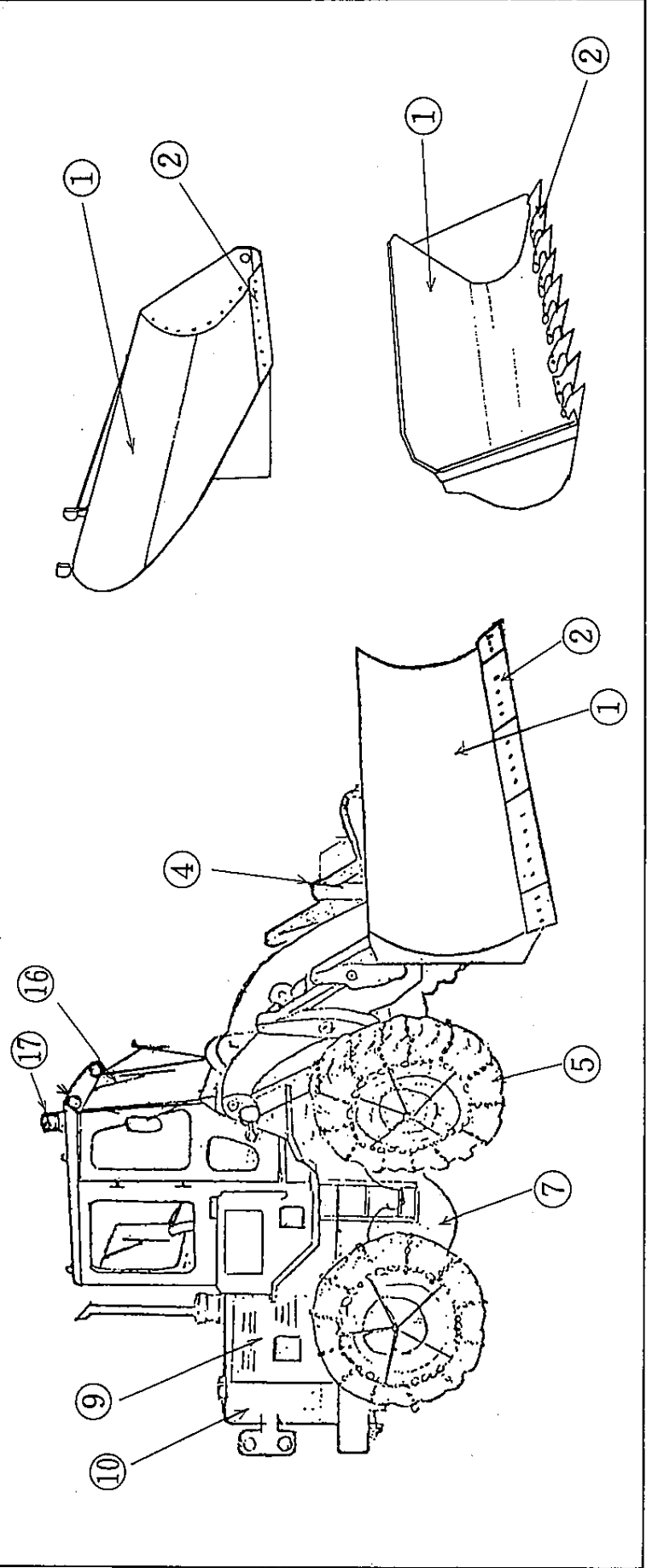
No.	点検箇所	状態	本体										その他										
			作	業	装	置	1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	除雪装置	損傷																					復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
2	カッチングエッジ	摩ゆ	燃	耗																			
3	油圧系統	油	漏																				
4	キャリアアローラ トラックローラ	油	漏																				
5	シユールボルト	脱	落																				
6	フロントアイトラ	油	漏																				
7	フラインドドライブ スプロケット	油	漏																				
8	車体底部	油	漏																				
9	エンジン	油	漏																				
10	ラジエータ	水	漏																				
11	ファンベルト	摩	耗																				
12	油圧系統	油	漏																				
13	クラッチ系統	機	能																				
14	ブレーキ系統	踏	代																				
15	計ワクラクション 器パイン	機	能																				
16	各種灯具関係	機	能																				



除雪ドーザー・スノーローダ(車輪式) 作業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

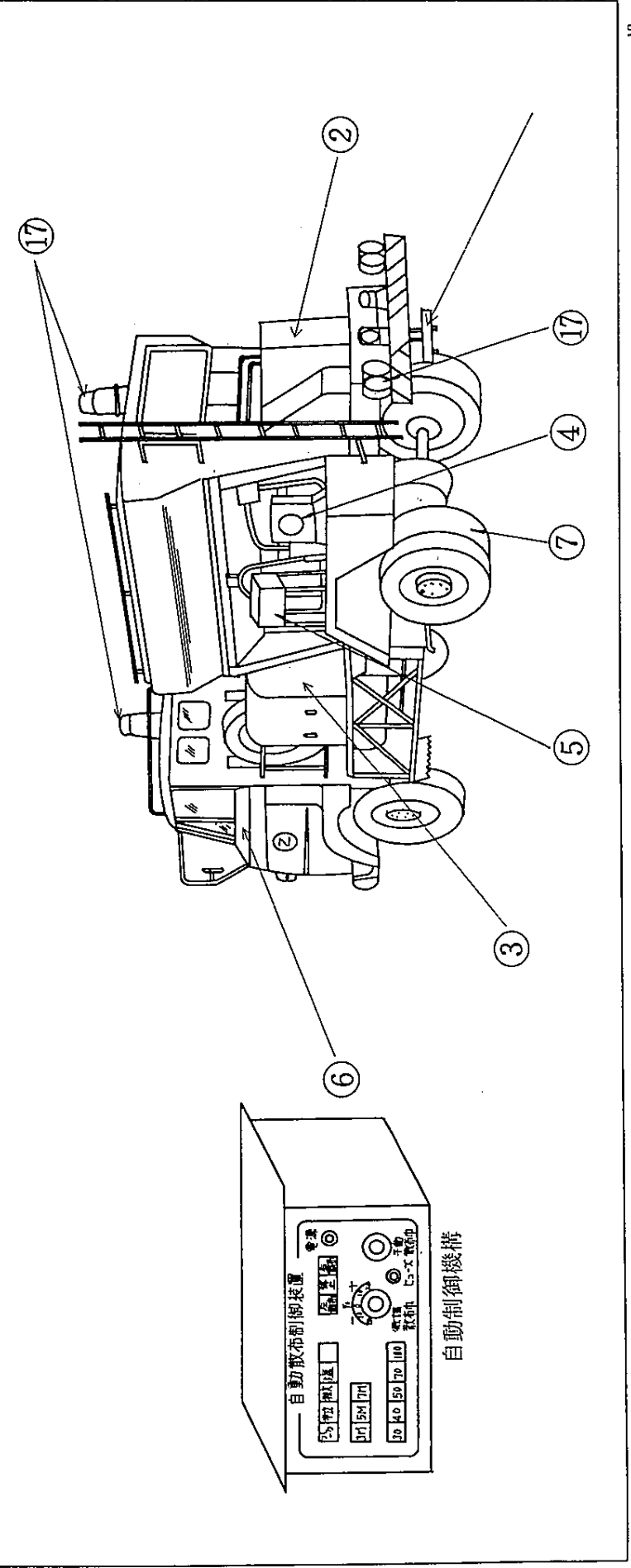
No.	作業装置																	その他		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
点検箇所	除雪装置	カッティングエッジ 又はブリス	シュー(そり)	油圧系統	タイヤ	タイヤチェーン	ファイナルドライブ	デフレンシヤル	油圧系統	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	ステアリング機構	トランスミッション	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器パネ クラクション ヒーター	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の	
状態	損傷 亀裂	摩 磨	摩 耗	油 も れ	損 傷 空 気 圧	摩 磨 耗	油 も れ	油 も れ	油 も れ	油 も れ	水 も れ	摩 耗	油 も れ	油 も れ	液 漏 れ	引 き 代	機 能	機 能		
チェック																				



凍結防止剤散布車仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

No.	本 体										その他								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	13	14	15	16	17	
点検箇所	散布円板	散布量調整ゲート	ベルトコンベヤ	減速機	油圧系統	自動制御機構	タイヤ	タイヤチェン	シャーンスプリング	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器パネ類	各種灯具関係	復元されているか 前日は完全に修 前の不具合の
状態	機付ガ	機付能	張付り	油ゆるも	油損も	ヒューズ スイッチ コンセン	損空気	摩ゆる	切ず	油も	水も	摩ゆる	油遊ガ	機踏	被踏	引き代	機能	機能	
チェック	能着タ	能着		れみ	れ傷		圧傷	み	損れ	れ	量れ	み	重さ	能代	み代	代	能	能	



II. 定期点検表

ロータリ除雪車(HTR41)定期点検表

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	15H ごと	50H ごと	100H ごと	250H ごと	備 考
エンジン 本体		各締付け部の増締め				○	
燃料系 統		燃料の洩れ		○			
		エレメントの汚れ点検			○		
	フューエルフィルタ	沈澱物排出		○			
	フェールタンク	タンク内部の清掃				○	
		ノルズ及びノズルホルダの噴霧の点検				○	
潤滑系 統	エンジンオイル	オイル交換			○		
	フルフローおよびバイ	エレメントの汚れ点検(沈澱物排出)		○			
	パスオイルフィルタ	エレメントの交換			○		
冷却系 統	ファンベルト	調 整	○				
	ウォーターポンプ	ベアリンググリース給脂		○			
吸気系 統	エアフィルタ	エレメント破損有無点検		○			
電気系 統	電装品のターミナル接点、絶縁部、ゆるみ、損傷点検					○	
	バッテリ	ターミナル部の洗浄、油脂、塗布				○	
		液比重測定		○			
動力伝 達系 統	トルコン・減速機	ラインフィルターエレメント交換				○	
		超高压ゴムホースの損傷、取付状態点検		○			
動力伝 達系 統	クラッチ	作用及ペダルの遊び及床板とのすきま点検		○			
		給 脂		○			
	プロペラシャフト	主推軸軸給脂	○				
		リヤプロペラシャフト給脂	○				
		フロントプロペラシャフト給脂	○				
	デフアレンシャル	フロントデフアレンシャル油洩れ点検		○			
		リヤデフアレンシャル油洩れ点検		○			
変 速 機	オイル点検、補給、交換		○				
走行装 置	ホイール他	クリップボルト、ハブボルトのゆるみの点検		○			
		リム、サイドリング及ホイールデスクの損傷点検		○			
		フロント、リヤホイールベアリングのがた点検				○	
かじ取 り装 置	ギヤーボックス	油洩れ点検、交換		○			
		各締付部の点検		○			
	ロッド、アーム類	ゆるみ、がた、損傷点検、給脂		○			
パワーステ装置	油洩れ点検、取付のゆるみ、がた点検		○				
ブレ ーキ 装 置	倍力装置	エア洩れ点検		○			
	フートブレーキドラム ライニング等	ドラムとライニングのスキマ点検			○		
		ドラムの取付ゆるみ点検			○		
	センタ・ブレーキ・ド ラム及ライニング	ドラムとライニングのスキマ点検			○		
		No.1 プロペラシャフト点検、給脂	○				
作 装 業 置	動力伝達系統	No.1 プロペラシャフト点検、給脂		○			
		No.2 プロペラシャフト軸受給脂	○				

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	15 H ご と	50 H ご と	100 H ご と	250 H ご と	備 考
作 業 装 置	動 力 伝 達 系 統	伝動機点検、補給、オイル交換		○			
		チェーン伝動点検、給脂、交換		○			
		チェーンホイール、テンション点検、給脂		○			
		スクリュー駆動軸点検、給脂	○				
	油 圧 装 置	各油圧シリンダー、洩れ、キズ、作動点検		○			
		ゴムホース、配管、洩れ、キズ、点検		○			
	そ の 他	ソリ、異常摩耗、亀裂、変形点検		○			
		昇降リンク変形、亀裂点検			○		
		除雪棒変形、亀裂、異常摩耗点検			○		
		スクリュー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブロー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブローケース変形、亀裂、異常、摩耗点検		○			
		カッティングエッジ異常摩耗点検		○			
	万 能 シ ュ ー ト	伸縮、キャップ作動、変形、亀裂点検		○			
		オイルモーター作動、洩れ点検		○			
旋回機構、作動、変形、亀裂、点検			○				

ロータリ除雪車 (H T R200) 定期点検表

1

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	15 H ごと	50 H ごと	100 H ごと	250 H ごと	備 考
エンジン本体		各締付け部の増締め				○	
燃料系統		燃料の洩れ		○			
	フューエルフィルタ	エレメントの汚れ点検			○		
		沈澱物排出		○			
	フエーエルタンク	タンク内部の清掃				○	
	ノルズ及びノズルホルダの噴霧の点検				○		
潤滑系統	エンジンオイル	オイルの交換			○		
	フルフローおよびバイパスオイルフィルタ	エレメントの汚れ点検		○			
		エレメントの交換			○		
冷却系統	冷 却 水	交換(不凍液の場合は1シーズン毎)			○		
	ファンベルト	調 整	○				
	ウォーターポンプ	ベアリンググリス給脂		○			
吸気系統	エアフィルタ	エレメント破損有無点検		○			
電気系統	電装品のターミナル接点、絶縁部、ゆるみ、損傷点検					○	
	バッテリ	ターミナル部の洗浄、油脂、塗布				○	
		液比重測定		○			
動力伝達系統	オイルポンプ	ラインフィルターエレメント清掃				○	
	オイルモータ	超高压ゴムモースの損傷、取付状態点検		○			
	クラッチ	作用及ベダルの遊び床板とのすきま点検		○			
		給 脂		○			
	プロペラシャフト	主推軸軸給脂		○			
		リヤプロペラシャフト給脂		○			
		フロントプロペラシャフト給脂		○			
	デフアレンシャル	フロントデフアレンシャル油洩れ点検			○		
リヤデフアレンシャル油洩れ点検				○			
変 速 機	オイル点検、補給、交換		○				
走行装置	ホイール他	クリップボルト、ハブボルトのゆるみ点検		○			
		リム、サイドリング及ホイールデスクの損傷点検		○			
		フロント、リヤホイールベアリングのがた点検			○		
かじ取り装置	ギヤーボックス	油洩れ点検、交換		○			
		各締付部の点検		○			
	ロッド、アーム類	ゆるみ、がた、損傷点検、給脂		○			
	パワーステ装置	油洩れ点検、取付のゆるみ、がた点検		○			
ブレーキ装置	ロッド、ケーブル	ロッド、ケーブル類のゆるみ、がた損傷点検		○			
	倍力装置	エア洩れ点検		○			
	フートブレーキドラムライニング等	ドラムとライニングのスキマ点検			○		
	センタ・ブレーキ・ドラム及ライニング	ドラムの取付ゆるみ点検			○		
		ドラムとライニングのスキマ点検			○		
	No.1 プロペラシャフト点検、給脂		○				

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	15 H ご と	50 H ご と	100 H ご と	250 H ご と	備 考
作 業 装 置	動 力 伝 達 系 統	No.1 プロペラシャフト点検、給脂		○			
		No.2 プロペラシャフト軸受給脂		○			
		伝動機点検、補給、オイル交換		○			
		チェーン伝動点検、給脂、交換		○			
		チェーンホイール、テンション点検、給脂		○			
		スクリー駆動軸点検、給脂		○			
	油 圧 装 置	各油圧シリンダー、洩れ、キズ、作動点検			○		
		ゴムホース、配管、洩れ、キズ、点検		○			
	そ の 他	ソリ異常摩耗、亀裂、変形点検		○			
		昇降リンク変形、亀裂点検			○		
		除雪棒変形、亀裂、異常摩耗点検			○		
		スクリー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブロー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブローケース変形、亀裂、異常、摩耗点検		○			
		カッティングエッジ異常摩耗点検		○			
	万 能 シ ュ ー ト	伸縮、キャップ作動、変形、亀裂点検		○			
		オイルモーター作動、洩れ点検		○			
		旋回機構、作動、変形、亀裂、点検		○			

ロータリ除雪車 (NR651・NR651S) 定期点検表

1

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	25Hr ごと	50Hr ごと	100Hr ごと	備 考
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 本 体	燃料および潤滑油の消費状態			○	
	バ ル ブ 機 構	バルブクリアランスの点検調整			○	エンジン停止時0.45~0.50
	燃 料 系 統	インジェクションポンプ			○	カム軸室の油量点検給油
		フエールフィルター清掃			○	
	潤 滑 油 系 統	オイルフィルタ内の沈澱物排出	○			
		〃 エレメントの交換			○	
		エンジン油の交換			○	25ℓ
	冷 却 水 系 統	ウォーターポンプベアリングの給脂	○			
		ウォーターポンプVベルトの張りの調整点検			○	
	吸 気 系 統	オイルコンデンサオリフィスのつまり清掃	○			
		エアフィルタエレメントの点検			○	
	電 気 系 統	スターティングモータ取付部の弛み点検			○	
		〃 〃 軸受への給油			○	
		ジェネレータ充電作用の点検	○			
		〃 Vベルトの張り調整点検			○	
オ イ ル ポ ン プ	リリーフバルブ設定圧力の点検			○		
	〃 吐出圧力の点検			○		
車 体	エ ン ジ ン 廻 り	エンジン取付状態(ラパークッションのへたり) <small>(ボルトのゆるみ)</small>		○		
		ラジエータ取付状態(ボルトのゆるみ)		○		
		ホース、パイプの損傷、弛みのないこと		○		
		ラジエータ内面のゴミ等のないこと		○		
	足 廻 り	ハブナットのゆるみ		○		
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検		○		
		クレイドル支えピングリース給脂			○	
		フロントアクスルジェツパジョイント部の給脂		○		
	か じ 取 り 装 置	ロッド、アーム類のゆるみ			○	
各部の給油				○		
走 り 装 置	制 動 装 置	ホース、パイプの油もれ、損傷点検			○	
		駐車ブレーキレバー、ラチェットの損傷摩耗			○	
		ロッド、ケーブル類の取付状態点検			○	
		ブレーキオイルの点検と配管のもれ			○	
ク ラ ッ チ	クラッチペダルの遊び			○		
動 力 伝 達	推 進 軸	ボルトのゆるみ点検		○		
		軸受、スプライン給脂		○		
		取付ボルトの点検		○		
作 業 装 置	除 雪 装 置	取付ボルトのゆるみ点検		○		
		油圧シリンダロッドの変形がないか		○		
		各部グリースの給油		○		

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	25 H r ごと	50 H r ごと	100 H r ごと	備 考
作 業 装 置	除 雪 装 置	シャープフランジの合せ目の隙間		○		0.2~0.3mm (1mm限度)
		シュート取付部のボルトのゆるみ		○		
		チェーンの張り点検			○	
	除 雪 装 置	ソリのネジストッパーの確認		○		
	高 雪 堤 処 理 装 置	ボルトのゆるみ		○		
		グリース給脂		○		
制 御 装 置	ホースの損傷有無確認		○			
	ボルトのゆるみ		○			
バ ッ テ リ	液面点検		○		極板上約10mm	
	電解液のもれ確認		○			
	の比重測定		○		20℃ 1.28	
	端子のゆるみのないこと		○			
エ ア ー 装 置	エアー配管のゆるみともれ確認		○			

ロータリ除雪車(NR652・NR652S)定期点検表

1

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	50Hr ごと	100Hr ごと	備 考
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 本 体	か・り具合および異音点検		○	
		低速および加速の状態点検		○	アイドルリング550~600rpm
		排気の状態点検		○	
		シリンダヘッドおよびマニホールド各部の締付点検		○	
		弁スキマ点検		○	冷間時 吸気0.30~0.40 排気0.50~0.60
	潤 滑 装 置	油の量および汚れ点検		○	
		エンジン油の交換		○	
	冷 却 装 置	ファンベルトの損傷点検		○	
電 気 系 統	接続部のゆるみおよび損傷点検		○		
車 体	エ ン ジ ン 廻 り	エンジン取付状態(カップリングの心狂い)	○		
		ラジェータの取付状態	○		
		ホース、パイプの損傷ゆるみのないこと	○		
		ラジェータ内面にゴミ等のないこと	○		
	足 廻 り	ハブナットの弛み	○		
		リムの損傷点検	○		
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検	○		
		グレイドル支えピングリス給油	○		
	フ ロ ン ト ア ク ス ル ジ ョ ン ト 部 給 脂	フロントアクスル	○		
		ジョイント部	○		
か じ 取 り 装 置	ロッド、アーム類のゆるみ	○			
	各部の給油		○		
走 り 装 置	制 動 装 置	ホース、パイプの油もれ、損傷点検		○	
		駐車ブレーキレバーラチェットの損傷摩耗		○	
		ロッドおよびケーブル類の取付状態点検		○	
		ブレーキオイルの配管のもれ		○	
ク ラ ッ チ	クラッチペダルの遊び		○		
動 力 伝 達	動 力 分 配 機	ボルトのゆるみ点検	○		
	推 進 軸	軸受、スプライン給脂	○		
		取付ボルトのゆるみ点検	○		
作 業 装 置	除 雪 装 置	取付ボルトのゆるみ点検	○		
		油圧シリンダロッドの変形がないか	○		
		各部グリースの給脂	○		
		シャーピンフランジの合せ目の隙間	○		0.2~0.3mm(1mm限度)
		シュート取付部のボルトのゆるみ	○		
		チェーンの張り点検	○		
	ソリのネジストップの確認	○			
	高 雪 堤 処 理 装 置	ボルトの弛み	○		
		グリース給脂	○		
	制 御 装 置 (油 圧)	ホースの損傷の有無確認	○		
ボルトのゆるみがないか		○			

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	50Hr ごと	100Hr ごと	備 考
バ ッ テ リ ー		液面点検	○		極板上約10mm
		電解液のもれ確認	○		
		◇ の比重測定	○		20℃で1.28
		端子のゆるみのないこと	○		
エ ア 装 置	エア配管のゆるみともれ確認	○			

ロータリ除雪車 (NR653) 定期点検表

1

点 検 箇 所	点 検 整 備 項 目	50 Hr ごと	100 Hr ごと	備 考 考
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 本 体	か、り具合および異音点検	○	
		低速および加速の状態点検	○	アイドルリング550~600rpm
		排気の状態点検	○	
		シリンダヘッドおよびマニホールド各部の締付点検	○	
		弁スキマ点検	○	冷間時 吸気0.3~0.4 排気0.5~0.6
	潤 滑 油 系 統	油の量および汚れ点検	○	
		エンジン油の交換	○	
冷 却 水 系 統	ファンベルトの損傷点検	○		
電 気 系 統	接続部のゆるみおよび損傷点検	○		
車 体	エ ン ジ ン 廻 り	エンジンの取付状態	○	
		ラジェータの取付状態	○	
		ホース、パイプの損傷ゆるみのないこと	○	
		ラジェータ内面にゴミ等のないこと	○	
	足 廻 り	ハブナットのゆるみ	○	
		リムの損傷点検	○	
		アクスルの取付ボルトのゆるみ点検	○	
		後軸ばね支え部グリス給脂	○	
	か じ 取 り 装 置	ロッド、アーム類のゆるみ	○	
		各部の給油	○	
センターピン部給脂		○		
走 り 装 置	制 動 装 置	ホース、パイプの油もれ、損傷点検	○	
		駐車ブレーキレバーラチェットの損傷摩耗	○	
		ロッドおよびケーブル類の取付状態点検	○	
		ブレーキオイルの配管のもれ	○	
ク ラ ッ チ	クラッチペダルの遊び	○		
動 力 伝 達	動 力 分 配 機	ボルトのゆるみ点検	○	
	推 進 軸	軸受、スプライン給脂	○	
		取付ボルトのゆるみ点検	○	
作 業 装 置	除 雪 装 置	取付ボルトのゆるみの点検	○	
		油圧シリンダロッドの変形がないか	○	
		各部グリスの給脂	○	
		シャーピンクランジの合せ目の隙間	○	0.2~0.3mm (限度 1mm限度)
		シュート取付部のボルトのゆるみ	○	
		チェーンの張り点検	○	
		ソリのネジストップパの確認	○	
制 御 装 置 (油 圧)	ホースの損傷の有無確認	○		
	ボルトのゆるみ	○		
バ ッ テ リ ー	液面点検	○	極板上約10mm	
	電解液のもれ点検	○		
	比重測定	○	20℃で1.28	
	端子のゆるみのないこと	○		
	エア配管のゆるみともれ確認	○		

ロータリ除雪車(R500B・R500C)定期点検

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	25H _r ごと	50H _r ごと	100H _r ごと	備 考
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 本 体	排気の状態点検	○			
	潤 滑 油 系 統	エンジンオイルフィルタの点検、交換			○	
		バイパスフィルタの点検、清掃			○	
		エアブリーザの清掃			○	
	燃 料 系 統	燃料フィルターの目詰り点検			○	
	冷 却 水 系 統	ファンベルト損傷の点検	○			
電 気 系 統	電気配線の点検	○				
車 体	エ ン ジ ン 廻 り	エンジンの取付状態の点検	○			
		ラジエーターの取付状態の点検	○			
		ホース、パイプの損傷、ゆるみのないこと			○	
		ラジエーター内面にゴミ等のないこと			○	
	足 廻 り	ハブナットのゆるみ	○			
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検	○			
		クレイドル支えピングリース給油			○	
か じ 取 り 装 置	各部の給油			○		
制 動 装 置	オートマチックドレインバルブ点検	○				
動 力 伝 達 装 置	ト ル コ ン	変速機、取付ボルトのゆるみ点検	○			
	歯 車 箱	プロペラシャフトの給脂		○		
	推 進 軸	変速機取付けボルトのゆるみ点検	○			
		変速機スクリーン清掃			○	
		ラインフィルター点検	○			
作 業 装 置	油 圧 回 路	ホース、損傷の有無確認		○		
	除 雪 装 置	取付ボルトのゆるみ点検		○		
		油圧シリンダロッドの変形がないか		○		
		各部グリースの給脂		○		
		シャーピンフランジの合せの隙間		○		0.2～ 0.3mm (1mm限度)
		チェーンの張り点検		○		
		ソリのネジストップの確認		○		
	バ ッ テ リ	液面点検		○		極板上約10mm
		電解液のもれ確認		○		
電解液の比重測定			○		20℃で1.28	

スノーローダ(NR451)定期点検表

点 検 個 所		点 検 整 備 項 目	30Hr ごと	50Hr ごと	100Hr ごと	備 考
エンジン	エンジン本体	バルブ、クリアランスの調整			○	0.4mm
	潤滑油系統	オイルフィルターの洗浄(バイパス)			○	
	燃料系統	燃料噴射ノズルのテスト			○	$220 \pm \frac{8}{0}$ kg/cm ²
		燃料フィルターの沈着物、水分の排出	○			
		燃料フィルターの洗浄および濾紙の交換			○	
		フィードポンプのストレーナーの洗浄			○	
	冷却水系統	ファンベルトの損傷の点検			○	
		冷却水の抜替え			○	
	電気装置	充電装置の点検			○	
		電気配線の点検			○	
その他	各パイプジョイントの増締			○		
	エンジンの調子点検			○		
車体	エンジン廻り	エンジンの取付状態(カップリングの心狂い)		○		
		ラジエタの		○		
		ラジエタ内面にゴミ等のないこと		○		
	足廻り	ハブナットのゆるみ		○		
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検		○		
		リヤアクスルジェットパジョイント部の給脂		○		
かじ取り装置	ロット、アーム類のゆるみ		○			
	各部の給油		○			
走り装置	制動装置	ホース、パイプのエアもれ、損傷点検		○		
		駐車ブレーキレバー、ラチェットの損傷摩耗		○		
		ロット、ケーブル類の取付状態点検		○		
クラッチ	クラッチペダルの遊び		○		40mm以下で調整	
動力伝達	動力分配機	ボルトのゆるみ点検		○		
	推進軸	軸、スプライン給脂		○		
		取付ボルトのゆるみ点検		○		
作業装置	除雪装置	取付ボルトのゆるみ点検		○		
		油圧シリンダーロッドの変形がないか		○		
		各部グリースの給脂		○		
		シャーピンフランジの合せ目の隙間		○		0.2~0.3mm(限度1mm)
		シュート取付部のボルトのゆるみ		○		
		チェーン張り点検		○		
制御装置	制御装置	ホースの損傷の有無確認		○		
		ボルトのゆるみがないか		○		
	バッテリー	液面点検		○		
		電解液のもれ確認		○		
		の比重測定		○		20℃で1.28
		端子のゆるみのないこと		○		
エア装置	エア配管のゆるみともれ確認		○			

除雪トラック定期点検表

1

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	1週間毎	1ヶ月毎	3ヶ月毎	備 考
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 本 体	かかり具合、及び異音		○		
		低速及加速の状態		○		アイドリング400～450 rpm
		排気の状態		○		
		エアークリーナーエレメントの状態		○		作業状態により短縮
	潤 滑 装 置	油洩れ点検		○		
		油の汚れ状態		○		
		オイルエレメントの詰り点検又は交換			○	状況により短縮
	燃 料 装 置	燃料洩れの点検		○		
		燃料エレメントの詰り点検又は交換			○	
		噴射ノズルの圧力及噴霧状態			○	220kg/cm ²
		噴射時期点検			○	B. T. D. C16*
	冷 却 装 置	ラジエーターキャップの機能点検		○		
		ファンベルトの弛み、損傷		○		中間部たわみ10mm
		ホース、パイプの損傷		○		
		ラジエーター内部にゴミ等のないこと		○		
	動 力 伝 達 装 置	クラッチ及ミッション	クラッチの液量		○	
ミッションの油洩れ				○		
プロペラシャフト		連結部の弛み			○	
		センターベアリングのガタ			○	
		スプライン部の給脂	○			
デフアレシヤル		油洩れ		○		
	キャリア取付けボルトの弛み			○		
ス テ ア リ ン グ 装 置	ギヤーボックス及 パワーステアリング	油洩れ		○		
		取付けの弛み			○	
		パワーステアリング機構の油洩れ		○		
		ホース、パイプの状態		○		
	パワーステアリングの油量		○			
ロッド及アーム類	弛み及ガタ		○			
制 動 装 置	ロッド及ケーブル類	弛み、ガタ及損傷		○		
	ホース及パイプ類	洩れ及損傷、取付状態		○		
走 行 ・ 懸 架 装 置	フロントアクスル	キングピン部への給油状態	○			
	クリップボルト	弛 み		○		打音点検
	ホイールデスク	亀裂及変形		○		
	フロントホイールベアリング	ガ タ			○	ジャッキアップにて行う
	シ ャ シ バ ネ	損 傷		○		
		ショックアブソーバー	油洩れ		○	
除装 置	配 管 各 部	油洩れ、損傷の点検	○			

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	1週間毎	1ヶ月毎	3ヶ月毎	備 考
除雪装置	チェーン	○ホイスト用及補助チェーンの亀裂の有無	○			
	油圧シリンダ	○ホイストロットの変形の有無		○		
	滑走板(ソリ)	○摩耗状態	○			
	各部給脂	○給脂の状態	○			

除雪グレーダ定期点検表

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	50 H ごと	250 H ごと	500 H ごと	備 考
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 本 体	バルブクリアランスの点検、調整		○		
		クランクケースブリーザのエレメント交換		○		
	潤 滑 油 系 統	オイル交換			○	ターボ付250 Hごと
		オイルフィルタ交換		○		
		バイパスフィルタ交換			○	
	燃 料 系 統	燃料フィルタのエレメント交換			○	
		燃料タンクの水抜き	○			
		燃料フィルタの水抜き	○			
	冷 却 系 統	ファンベルトの弛み点検調整		○		
		コロージョンレジスタ、エレメント交換			○	
		ラジエータフィンの清掃、点検			○	
		水ポンプの給脂		○		
空 気 系 統	エアクリーナ外筒エレメントの清掃		○			
電 気 系 統	バッテリーの液面点検		○			
車 体	か じ 取 り 装 置	駐車ブレーキレバーストローク調整		○		
		ステアリングシャフトの給脂		○		
		タイロッドの給脂		○		
		ユニバーサルジョイントの給脂		○		
		アームブッシュの給脂	○			
		ボールスタッドの給脂	○			
		前車軸各リンク、ピンの給脂	○			
	制 動 装 置	フートブレーキの調整		○		
	パ ワ ー ラ イ ン	クラッチ及びトランスミッションオイル点検		○		
		ファイナルドライブケースオイル点検		○		
タンデム・ドライブケースオイル点検			○			
ユニバーサルジョイントの給脂			○			
足 廻 り	ホイールハブナットの弛み点検		○			
作 業 機 ・ そ の 他	作 業 機 系 統	ブレード回転機ギヤケースオイル点検		○		
		操向ギヤケースオイル点検		○		
		サークル案内金具のスキマ点検、調整			○	
		サークル、ピニオンギヤ給脂	○			
		ブレードガイドレールの給脂	○			
		その他の給脂		○		

除雪ドーザ、スノーローダ(履帯式)定期点検表

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	50 H ごと	100 H ごと	250 H ごと	備 考
エ ン ジ ン	動 力 装 置	プライマリ燃料エレメント清掃	○			
		燃料フィルタ排水	○			
		ファンベルトの張り損傷			○	
		ファンブリー給脂			○	
		ファン、ベアリング給脂			○	
		ウォーターポンプベアリング給脂			○	
		エアクリーナ、エレメント(外側)清掃又は洗浄			○	
		〃 〃 (内側)清掃又は洗浄			○	
		燃料エレメント交換			○	
		エンジン、オイル交換			○	
		エンジン、オイルエレメント交換			○	機種により異なる
		エンジン、エイルエレメント、ブリーザ清掃			○	
		燃料タンク、給油、ストレナ清掃			○	
		燃料タンク、給油キャップ清掃			○	
本 体	動 力 伝 達 装 置	ファイナル、ドライブ室油壺、汚れ	○			
		クラッチ点検調整			○	
		トランスミッション、フィルタ、エレメント交換			○	
		トランスミッション、マグネチック、ストレナ洗浄			○	
	操 向 装 置	ステアリング、クラッチ室ドレーンの油抜き	○			乾式のみ
		ステアリング、クラッチ及びブレーキ点検調整			○	
		ブレーキ(パーキング、ブレーキ含)			○	
走 行 装 置	イコライザ、スプリング、ピン給脂	○				
作 業 装 置	作 業 装 置	ブルドーザ、シリンダーサポート、ベアリング給脂	○			
		ブルドーザ、シリンダー下部、トラニオン給脂	○			
		ブルドーザ、チルトソケット及びボール給脂	○			
		チルトシリンダーコントロール、リンケージ給脂	○			
		油圧系統リンケージ、ピボット給脂	○			
		バケットポジショナー、チューブ給脂	○			
		ブルドーザ、ダイヤゴナル、アーム調整		○		
		ブルドーザ、チルト、プレースのボール調整		○		
		バケット、ポジショナー点検調整		○		
		リフト、キックアウト点検調整		○		
		バケット、ピン給脂		○		
		ハイドリック、シリンダー、シム調整			○	
		そ の 他	バッテリー液量、比重	○		
	グローブラグ及びスイッチ				○	

注) 1 エアクリーナ、エレメントの清掃及び交換

(イ)エアクリーナ、エレメント(外筒)清掃はインジケータに赤色バンドが表示されたとき実施して下さい。

(ロ)エアクリーナエレメント(外筒)を清掃してもすぐ赤色バンドが見えたり6~8回も清掃したエレメントは新品と交換します。

(ハ)エアクリーナエレメントを交換してもなおインジケータに赤色バンドが見える場合は内筒エレメントの清掃を行ないます。

(ニ)又内筒エレメントを清掃してもインジケータに赤色バンドが表示される時は内筒エレメントを交換して下さい。

注) 2 エンジン回転時、燃料圧力計がOUT又は赤色表示している場合はプライマリ燃料フィルタの洗浄又は燃料エレメントの交換を行ないます。

除雪ドーザ、スノーローダ(車輪式)定期点検表

点検箇所		点検整備項目	50H ごと	100H ごと	250H ごと	備考
エンジン	動力装置	燃料フィルターの排水	○			
		エンジンオイル交換			○	
		エンジンオイルエレメント交換			○	
		＊ ＊ プリーザ洗浄			○	
		ファンベルト張り損傷			○	
		ファンプーリベアリング給脂			○	
		ウォータポンプベアリング給脂			○	
		燃料タンク給油口キャップ洗浄			○	
本体	動力伝達装置	センタドライブシャフトスプライン給脂	○			
		ドライブシャフトサポート給脂		○		
		＊ ＊ スプライン給脂		○		
		デフファイナル油量(前後)		○		
		ミッションエレメント交換			○	
本体	操向装置	リヤアクスルトラニオンベアリング給脂	○			
		ステアリング機構給脂	○			
		ステアリングプースタ及び コントロールロッドソケット給脂	○			
		フレーム下部ピボットベアリング給脂		○		屈折式
		ステアリングギヤハウジング油量			○	
		＊ フォローアップリンケージ給脂			○	
		＊ シリンダベアリング給脂			○	
作業装置	作業装置	バケットピボットピン給脂	○			
		＊ ポジショナ点検		○		
		＊ ＊ ベアリング給脂		○		
		リフトキックアウト点検		○		
		＊ ＊ ＊ ベアリング給脂		○		
その他	バッテリー液量、比重		○			

注) 1 エアクリーナエレメント清掃及び交換

(イ)エアクリーナエレメント(外筒)清掃はインジケータに赤色バンドが表示された時実施して下さい。

(ロ)エアクリーナエレメント(外筒)を清掃してもすぐ赤色バンドが見えたり6~8回も清掃したエレメントは新品と交換します。

(ハ)エアクリーナエレメントを交換してもなおインジケータに赤色バンドが見える場合は内筒エレメントの清掃を行ないます。

(ニ)又内筒エレメントを清掃しても同上であれば内筒エレメントを交換して下さい。

注) 2 エンジン回転時燃料圧力計がO U F又は赤色表示している場合はプライマリ燃料フィルタの洗浄又はエレメントの交換を行ないます。

凍結防止剤散布車定期点検表

1

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	1週間ごと	1ヶ月又は50Hごと	備 考
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 本 体	低速、加速状態		○	
		バルブクリアランス		○	吸気0.25mm 排気0.25mm
	エ ア ク リ ー ナ	エレメントの汚れ		○	
	潤 滑 系 統	オイル漏れ		○	
		オイルの汚れ		○	
	燃 料 系 統	燃料漏れ		○	
		燃料フィルタ清掃		○	
燃料給油ポンプ洗浄			○		
車 体	動 力 伝 達 系 統	クラッチ液量		○	
		クラッチペダル遊び		○	30mm限度
		トランスミッション油漏れ		○	約5ℓ
		ディファレンシャル油漏れ		○	
	か じ と り 装 置	ギアボックス油漏れ		○	
		ロッド、アームゆるみ、ガタ		○	
	制 動 装 置	ロッド、ケーブルゆるみ、損傷		○	
		ホース、パイプ漏れ、損傷		○	
		倍力装置クリーナの詰まり		○	
		ブレーキドラムとライニングのすき間		○	限度0.5mm
走 行 置	ホ イ ー ル	クリップボルト、ハブボルトのゆるみ		○	
		リム、サンドリンク、ホイールディスクの損傷		○	
殺菌装置	取付け部、連結部	ゆるみ、損傷		○	
電 気 装 置	充 電 装 置	充電作用		○	
	バ ッ テ リ	液 量		○	
	電 気 配 線	接続部のゆるみ、損傷		○	
油 圧 系 統	作 動 油 タ ン ク	油 量	○		毎日が望ましい
		乳化度		○	乳白色の場合は交換
		水ぬき		○	
	配 管 ・ ホ ー ス 類	油漏れ、錆		○	
	油 圧 ポ ン プ	油漏れ		○	
	油 圧 モ ー タ ー	油漏れ		○	
	P. T. Oジョイント	グリースアップ		○	
ベ ル ト コ ン ベ ヤ	ユニバーサルジョイント	グリースアップ		○	
	カ ッ プ リ ン グ	損 傷		○	
		止めネジゆるみ		○	
	駆 動 チ ェ ー ン	グリース塗布		○	
	軸 受	洗 滌		○	
グリース塗布			○		

点 検 箇 所		点 検 整 備 項 目	1週間毎	1ヶ月又は50H毎	備 考
ベルトコンベヤ	コンベヤチェーン	点滴給油	○		
		グリース塗布		○	
	給油タンク	油量	○		
	テイクアップユニット	錆洗滌	○		水洗
	裏側の薬剤	洗浄	○		
	コンベヤフレーム	薬剤の付着洗浄	○		
	作 用	応答速度	○		スイッチNo.後2～3秒にて作動
円滑性		○			
散布円盤部	散布円盤の歪み			○	
	駆動シャフトの歪み			○	
	放出筒の歪み			○	
	作 用	円滑性	○		
	可 動 羽 根	角 度	○		
蝶ナットの有無		○			
ゲート	案 内 溝	薬剤の付着洗浄	○		
	作 用	円滑性	○		
		高 さ		○	フレーク7 m 100g の時180mm
電気装置	コントロールアンブ	予備フューズの有無	○		
		コネクターのはずれ		○	メイン電源を切り調査
	作 業 灯	球切れ等	○		
	黄色回転灯	々	○		
	残量確認装置	回転羽根の作用	○		装備車のみ
ボディ	マ ン ホ ール	ヒンジ給油	○		
	点 検 窓	ヒンジ給油	○		
	駆動部カバー	ヒンジ給油	○		

Ⅲ. 取扱い上の注意事項

1. ロータリ除雪車(HTR41)

- 1) シャーピンは純正品以外使用しないで下さい。動力伝達系統や作業装置に思わぬ故障や破損を生じます。
- 2) 暖機運転を行なわないで車の発進をしてはいけません。エンジン及び各部の潤滑不足による摩耗、焼き付等を起し大きな故障の原因となります。
- 3) オーバーランはさけて下さい。下り坂では車両重量による惰力で発生するサージ圧力をフートブレーキを踏んで殺し走行用ポンプを保護して下さい。
- 4) 除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。下降防止をしないと油圧シリンダーで重い除雪装置を支持することとなり回送中にホースの破損等により急降下し思わぬ大事となる恐れがあります。
- 5) エンジンを運転したままの給油脂等は絶対にしないで下さい。衣服の袖口及び身体がスイッチやレバー等に触れたりすると車が移動したりオーガなどが突然まわり出しそれにまき込まれたりして思わぬ大事故になる事があります。
- 6) 作業終了後ただちにエンジンを停止しないで下さい。排気ターボは高温で高速回転しています。急に停止すると油膜切れにより軸受メタルの焼付等の原因となります。(アイドリング5分間後停止して下さい。)
- 7) 除雪作業後は除雪装置に付着した雪を落とし各作動部分が凍結しない様注意して下さい。
- 8) エアータンクのドレインより水抜きする事を忘れないで下さい。排水を怠ると凝水がタンク及びブレーキパイプライン内で凍結し制動不能になる事があり非常に危険です。
- 9) 冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。冬期間はブレーキドラム内が凍結する恐れがあります。長時間の駐車には除雪装置を下降させてタイヤに歯止めを使用して下さい。
- 10) オイルコンデンサーのドレインを開いて廃油を排出する事を忘れないで下さい。排出を怠ると廃油が燃焼室内で異状燃焼を起しピストンの破損原因となります。(2サイクルエンジン搭載車)

2. ロータリ除雪車(HTR200)

- 1) シャーピンは純正品以外使用しないで下さい。動力伝達系統や作業装置に思わぬ故障や破損を生じます。
- 2) エンジン始動時はハンドルは動かさないで下さい。センターピン付近などで人間がいた場合車体にはさみ込むなどの危険があります。
- 3) 暖機運転を行なわないで、車の発進をしてはいけません。エンジン及び各部の潤滑不足による摩耗、焼き付等を起し大きな故障の原因となります。
- 4) エンジンを運転したままの給油脂等は絶対にしないで下さい。衣服の袖口及び身体がスイッチ

レバー等に触れたりすると車が移動したり、オーガなどが突然まわり出し、それにまき込まれたりして、思わぬ大事故になる事があります。

- 5) オーバーランはさけて下さい。坂道を下る時は車両重量による惰力で発生するサージ圧力をフットブレーキを踏んで殺し走行用ポンプを保護して下さい。
- 6) オイルポンプの油温計の指針が80° C付近の長時間走行はさけて下さい。作動油が高温になるとポンプモーター内部の部品が高温に耐えられなくなり損傷したり、かじり油膜切れ等により故障の原因となります。この様な時はチェンジダウンして下さい。
- 7) 急坂の場合は、坂の手前で変速後登坂して下さい。走行中は高、中低速の変速は出来ません。
- 8) クラッチペダルは作業用の高低速レバー操作以外絶対に使用しないで下さい。クラッチ内部のクラッチフェーシング等の部品を傷めすべし、切れ不良等の故障原因になります。
- 9) 除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。下降防止をしないと油圧シリンダーで重い除雪装置を支持することとなり、回送中にホースの破損等により急降下し思わぬ大事故となる恐れがあります。
- 10) 作業終了後、ただちにエンジンを停止しないで下さい。排気ターボは高温で高速回転しています。急に停止すると油膜切れにより軸受メタルの焼付等の原因となります。(アイドリング5分間後停止して下さい)
- 11) 除雪作業後は除雪装置に付着した雪を落とし各作動部分が凍結しない様注意して下さい。
- 12) エアータンクのドレーンにより水抜きする事を忘れないで下さい。排水を怠ると凝水がタンク及びブレーキパイプライン内で凍結し制動不能になる事があり非常に危険です。
- 13) 冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。冬期間はブレーキドラム内が凍結する恐れがあります。長時間の駐車には除雪装置を下降させてタイヤに歯止めを使用して下さい。

3. ロータリ除雪車(NR651, NR651S)

- 1) シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。動力伝達系や作業装置が故障又は破損します。シャーピン用の穴は6個ありますが、シャーピンの使用本数は、2本ですので、2個のみ使用して下さい。
- 2) プロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。
- 3) 除雪装置についた雪を落さないで油圧シリンダーを作動させないで下さい。雪を落さないで作動させると思わぬ部分に無理がかかり、破損することがあります。
- 4) 走行用サクシヨンフィルタの指針が250mmHg以上を指示している時は発進又は運転はやめて下さい。吸入圧力が高いと、チャジポンプの圧力が減じポンプモーターが故障します。始動時低温の場合は250mmHgをこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合はエンジンを停止しフィルタの点検又はエレメントの交換を行って下さい。

- 5) 暖機運転を行わないでの車の発進はさけて下さい。冬期は特にオイルの粘度が高くなっている
ので、暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。
- 6) 除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。下降防止をしないと、除雪装置は
油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急降下すると、思わぬ大事故になること
があります。
- 7) ギヤチェンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。 高速回転でギヤチェンジすると激
しいギヤ鳴りをおこし、ギヤの損耗と破損の原因となります。従ってギヤチェンジはエンジン
アイドル状態で行って下さい。
- 8) 走行作動油の温度計の指示が80° C以上で長時間運転しないでください。高温で長時間使用す
ると、ポンプ、モータ内部部品の膨脹、摺動面のカジリ、油膜切れ等により故障の原因となり
ます。
- 9) 前後進レバーでブレーキ操作をしないで下さい。高速で回送中、前後進レバーを急激に減速側
に戻すと、車の慣性力により後進側の圧力が急上昇するため、ポンプ、モータ内のピストンと
シュー間で過大な引張力が作用し内部破損の原因となります。
- 10) 前後進レバーは急激に操作しないで下さい。理由～9項に同じ
- 11) オーバランはさけて下さい。下り勾配では40km/h以上の速度が出ることがありますが、その
場合はモータは車輪によって逆駆動され、バキューム現象が出るため、ピストン摺動面の油膜
切れによる故障につながります。
- 12) ピッチングしながらの走行はさけて下さい。道路条件により回送中激しいピッチング現象が出
たとき、できるだけ早めにフットブレーキを踏んで減衰させて下さい。
- 13) 「シュート放雪⇄直接放雪」の切換はフロアケース内に雪がある間には行わないで下さい。フロ
アケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。
- 14) ソリを使う時はシリンダーで押しつけることは一般的にはさけて下さい。シリンダで押しつけ
ると、ソリの摩耗を早めますので、フローティング（浮き位置）状態にして除雪して下さい。
- 15) 高雪堤処理作業時は高雪堤の圧力計指示が140kg/cm²では作業はやらないで下さい。140kg/cm²
を示したままの時は、リリーフバルブが働いて高雪堤処理装置が停止しており、無理押してい
る状態です。100kg/cm²以下で運転して下さい。
- 16) けん引される場合はミッションのギヤを入れたままで引張らないで下さい。ギヤを中立にしない
でけん引するとギヤ又はポンプ、モータが破損します。
- 17) 冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。寒冷時、パーキングブ
レーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪
装置を路面に接地させて下さい。
- 18) エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。排水を怠ると、凝水がブレー
キパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

- 19) エンジンオイルコンデンサーより排油することを忘れないで下さい。排出を怠ると廃油がピストン内で異常爆発し、ピストンが破損することがあります。

4. ロータリ除雪車(NR652, NR652S)

- 1) シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。動力伝達系や作業装置が故障又は破損します。
- 2) ブロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。
- 3) 除雪装置についた雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。雪を落さないで作動させると思わぬ部分に無理がかかり、破損することがあります。
- 4) 走行用サクシオンフィルタの指針が250mmHg以上を指している時は発進又は、運転はやめて下さい。吸入圧力が高いと、チャージポンプの圧力が減じポンプモータが故障します。始動時低温の場合は250mmHgをこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合はエンジンを停止し、フィルタの点検又はエレメントの交換を行って下さい。
- 5) 暖機運転を行わないでの車の発進はさけて下さい。冬期は特にオイルの粘土が高くなっているため、暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。
- 6) 除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急降下すると、思わぬ大事故になることがあります。
- 7) ギャチエンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。高速回転でギャチエンジすると激しいギャ鳴りをおこしギャの損耗と破損の原因となります。従ってギャチエンジはエンジンアイドリング状態で行って下さい。
- 8) 走行作動油の温度計の指示が88°C以上で長時間運転しないで下さい。高温で長時間使用すると、ポンプ・モータ内部部品の膨脹、摺動面カジリ、油膜切れ等により故障の原因となります。
- 9) 「シュート放雪⇔直接放雪」の切換はブロアケース内に雪がある間に行わないで下さい。ブロアケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。
- 10) ソリを使う時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。シリンダで押しつけるとソリの摩耗を早めますのでフローテンプ（浮き位置）状態にして除雪して下さい。
- 11) 高雪堤処理作業時は高雪堤の圧力計指示が140kg/cm²では作業はやらないで下さい。140kg/cm²を示したままの時は、リリーフバルブが働いて高雪堤処理装置が停止しており、無理押ししている状態です。100kg/cm²以下で運転して下さい。
- 12) 除雪装置の左右チルト操作において左右差は5°以上にならない様にして下さい。リリーフ圧のセット以上迄チルトさせると取付部に無理がかかり変形する事があります。
- 13) 無理なステアリング操作はさけて下さい。前輪が横ズレする様な力をかけると、除雪棒の変形

が生ずるので強引なステアリング操作はさけて下さい。高積雪、硬雪の場合には特に注意して下さい。

- 14) シュートの起立、倒伏時はエンジン高速回転では行わないで下さい。エンジン回転を高くするとシュートの起立、倒伏が急動作となり非常に危険です。
- 15) けん引される場合はミッションのギャを入れたままで引張らないで下さい。ギャを中立にしないでけん引すると、ギャ又はポンプモータが破損します。
- 16) 冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのにはさけて下さい。寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪装置を路面に接地させて下さい。
- 17) エアタンクのドレーンより凝水を排水することを忘れないで下さい。排水を怠ると、凝水がブレーキパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

5. ロータリ除雪車(NR653)

- 1) シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。動力伝達系統や作業装置が故障又は破損します。
- 2) プロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。
- 3) 除雪装置について雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。雪を落さないで、作動させると、思わぬ部分に無理がかかり、破損することがあります。
- 4) 走行用サクシオンフィルタの指針が250mmHg以上を指示している時は発進又は運転はやめて下さい。吸入圧力が高いと、チャージポンプの圧力が減じポンプ、モータが故障します。始動時低温の場合は250mmHgをこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合はエンジンを停止し、フィルタの点検又はエレメントの交換を行って下さい。
- 5) 暖機運転を行わないでの車の発進はさけて下さい。冬期は特にオイルの粘度が高くなっているため暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。
- 6) 除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急降下すると、思わぬ大事故になることがあります。
- 7) ギャチェンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。高速回転でギャチェンジすると激しいギャ鳴りをおこし、ギャの損耗と破損の原因となります。従って、ギャチェンジはエンジンアイドル状態で行って下さい。
- 8) 走行作動油の温度計の指示が80°C以上で長時間運転しないで下さい。高温で長時間使用すると、ポンプ、モータ内部部品の膨脹、摺動面のカジリ、油膜切れ等により故障の原因となります。

- 9) 高速走行での急旋回はさけて下さい。冬期は特に路面の状態が悪いので、高速急旋回すると横すべり、横転の危険性があります。
- 10) 「シュート放雪⇔直接放雪」の切換はブローケース内に雪がある間には行わないで下さい。ブローケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。
- 11) ソリを使用する時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。シリンダで押しつけるとソリの摩耗を早めますので、フローティング（浮き位置）状態にして除雪して下さい。
- 12) けん引される場合は、ミッションのギャを入れたままで引張らないで下さい。ギャを中立にしないでけん引するとギャ又はポンプモータが破損します。
- 13) 冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのにはさけて下さい。寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪装置を路面に接地させて下さい。
- 14) エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。排水を怠ると、凝水がブレーキパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

6. ロータリ除雪車(R500B,R500C)

- 1) シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。動力伝達系や、作業装置が故障又は破損します。シャーピン用穴は6個又は4個ありますが、シャーピンの使用本数は2本ですので、2個のみ使用して下さい。
- 2) ブローケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。
- 3) 除雪装置についた雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。雪を落さないで作動させると思わぬ部分に無理がかかり破損することがあります。
- 4) 暖機運転を行わないでの発進はさけて下さい。冬期は特にオイルの粘度が高くなっているため、暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。
- 5) 除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるのでホースの切損等により急降下すると思わぬ大事故になることがあります。
- 6) あります。
ギャチェンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。高速回転でギャチェンジすると、湿式多板クラッチの摩耗の原因となります。従ってギャチェンジはエンジンアイドル状態で
- 7) 行って下さい。
ソリを使用する時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。シリンダで押しつけると、ソリの摩耗を早めますので、フローティング（浮き位置）状態にして除雪して下さい。
- 8) 春山の全幅除雪では無理押しはさけて下さい。トルクコンバータ駆動のため、前面抵抗に抗し

てけん引力が増大しますので、エンジン回転により負荷状況を判断し、フートブレーキを併用して除雪して下さい。

- 9) けん引される場合はミッションのギヤを入れたままで引張らないで下さい。ギヤを中立にしないで、けん引するとギヤの破損又は湿式多板クラッチが損耗します。
- 10) 冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのにはさけて下さい。寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして除雪装置を路面に接地させて下さい。
- 11) エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。排水を怠ると凝水がブレーキパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

7. スノーローダ (NR451)

- 1) シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。動力伝達系統や作業装置が故障又は破損します。
- 2) ブロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。
- 3) 除雪装置について雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。雪を落さないで、作動させると思わぬ部分に無理がかかり破損することがあります。
- 4) 走行用サクションフィルタの指針が250mmHg 以上を指示している時は発進又は運転はやめて下さい。吸入圧力が高いと、チャージポンプの圧力が減じ、ポンプ、モータが故障します、始動時低温の場合は250mmHgをこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合にはエンジンを停止し、フィルターの点検又はエレメントの交換を行って下さい。
- 5) 暖機運転を行わないでの発進はさけて下さい。冬期は特にオイルの粘度が高くなっているため暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。
- 6) 除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急下降すると、思わぬ大事故になることがあります。
- 7) 走行作動油の温度計の指示が80°C以上で長時間運転しないで下さい。高温で長時間使用すると、ポンプ、モータ内部部品の膨脹、摺動面のカジリ、油膜切れ等により故障の原因となります。
- 8) 「シュート放雪⇄直接放雪」の切換はブロアケース内に雪がある間には行わないで下さい。ブロアケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。
- 9) ソリを使用する時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。シリンダで押しつけると、ソリの摩耗を早めますので、フローティング（浮き位置）状態にして除雪して下さい。
- 10) シュートの起立、倒伏時はエンジン高速回転では行わないで下さい。エンジン回転を高くする

とシュートの起立、倒伏が急動作となり非常に危険です。

- 11) けん引される場合にはミッションのギヤを入れたままで引張らないで下さい。ギヤを中立にしないで、けん引すると、ギヤ又はポンプ、モータが破損します。
- 12) 冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのにはさけて下さい。寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪装置を路面に接地させて下さい。
- 13) エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。排水を怠ると、凝水がブレーキのパイプライン内で凍結し、制動不能になることがあるので、毎日終業時実施下さい。

8. 除雪トラック

- 1) トランスファーの操作は下記によって下さい。トランスファーは、フロントドライブ（前輪駆動）を行う為の装置で、トランスミッションの後部に設けられ、内部は、切換ギヤー及高、低速切換ギヤーとによって構成されて居ります。フロントドライブを作動させる時には、次の事を厳守して下さい。
 - ①N—Hへの切換えは走行中ダブルクラッチを使用する事によって可能
 - ②N—Lへの切換えは、必ず停車して行う事
 - ③急停車、急発進は、特に注意する事
- 2) フロントアクスル部への給油を忘れずに実施して下さい。除雪作業時には、プラウの取付角度の関係により、常に左方向へハンドルを切りながら直進する状態が住々にしてあります。その様な作業の時に、ナックルアーム及ベアリング等に掛る力は大きなものであります。従って当該部への給油脂は1週間毎に念入りに行なって下さい。
- 3) クリップボルトの点検を適宜実施して下さい。ボルト、ナット類は一般に振動によって弛みがちなものです。特にクリップボルト、ナットは、車両の全量、駆動力、及走行時の路面衝撃等を受ける重要なものです。これの弛みは重大事故になりますので、1ヶ月毎に点検、増締をする必要があります。
- 4) 配線の氷結の除去を心がけて下さい。車体外の灯火類（テールランプ・バックランプ・フラッシュランプ等）は一般に空中配線を行っていますが、冬期間これに雪が附着し凍結する事があります。これを放置しておくと、だんだん大きく、重くなって、遂には配線を切断してしまい、灯火の不灯或は、ショートして配線が燃える等の事故につながる危険があります。これ等を防ぐ為には氷結を常に取除く必要があります。
- 5) エアータンクの凝水排出を実施して下さい。空気中の水分が、コンプレッサーによって圧縮され発熱したものが、エアータンク内に入り膨脹、冷却されると、水分が分離されタンク内や、配管内に溜り凍結により重大事故になります、従って終業時には必ず排水して下さい。又、新型車には、空気圧と連動し、且電気加熱により凍結防止を図った自動排水弁が装着されている車もあります。その場合は仕業点検時に必ず作動スイッチを入れて下さい。

- 6) オイル交換の時期は一般作業よりも早めに実施して下さい。一般的には、メーカー指示通りで良い訳ですが、除雪作業等では、エンジンの負荷が大きいため、標準よりも早目に行って下さい。

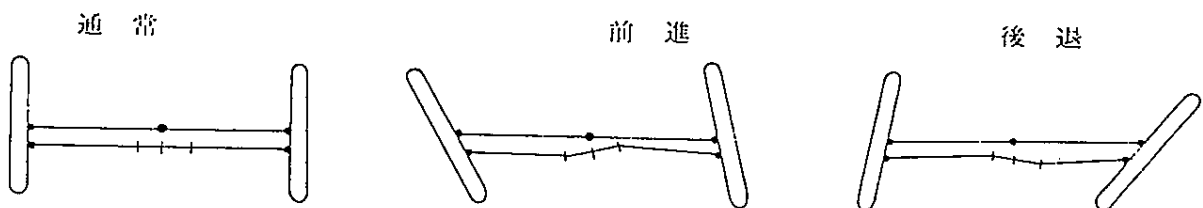
標準時期	除雪作業時
エンジンオイル……………12,000km毎	10,000km毎
エレメント……………12,000km毎	10,000km毎

- 7) ブラウのソリの調整を忘れないで下さい。施工条件によっても異なりますが、カッティングエッジのみに全重量を保持させる事なく、滑走板(ソリ)を適度の高さに調整して使用して下さい。
- 8) ブラウホイスト用チェーン、及び補助チェーンの取扱いを間違えないで下さい。ブラウはホイスト用チェーンを介して上、下します。除雪作業中はホイストチェーン、補助チェーン共に弛ませ、回送時には、ブラウを上げた状態で補助チェーンを一杯に張ってホイスト用チェーンは弛ませて下さい。回送終了時には、忘れずに各チェーンを弛ませて、作業状態にして下さい。
- 9) 休車時にはホイストシリンダーを下降させて下さい。ブラウを完全に下げ、ホイストシリンダーに付着した雪を落して、一杯に縮めた状態で格納して下さい。シリンダーロッドの防錆と、ゴミ等の附着を防ぎます。

9. 除雪グレーダ

- 1) ターボチャージャは暖気運転、冷却運転をせずに、運転をしないで下さい。排気により回転し、かつ、回転数が速く、高温であり急激な運転や停止をすると、温度差により歪みが発生し、油洩れ、焼付の原因となります。
- 2) ターボチャージャは長時間スロー運転をしないで下さい。エンジンの温度が低く潤滑しているエンジンオイルが燃焼しないでカーボンとなり、ブローに付着し、円滑な回転となく破損の原因となります。
- 3) トランスミッションのチェンジレバーは乱暴に変速しないで下さい。乱暴な操作をすると、チェンジレバー、シフターフォーク、シフトシャフトギヤの破損、曲りとなります。
- 4) タンデムケース上は毎日清掃して下さい。ケース上部のブリーザの周辺に泥や雪がたまると内部に水が入りやすくなります。
- 5) 後退時はリーニングを最大にしないで下さい。タイロッドで前輪をおさえられなくなり、片方のタイヤがフラフラになり、余分な力によりピットマンアーム、ステアリングたてシャフトが曲ります。

リーニング左たおしで上から見た図



- 6) ブレードのスライドを余り大きくしないで下さい。ブレードはサークルアームでおさえっていますが、ブレードの巾の半分以下ですので強い力をかけますとブレードが曲ります。横送りシリンドラで行って下さい。
- 7) バンクカット時は通常姿勢のまましないで下さい。バンクカットはブレードが片方90°に上るため、支点を移動しなければなりません。支点を移動しないと、本体とドロバ、又は、サークル回転モータが干渉します。
- 8) スカリファイヤをいっぱい上げて、ブレードをいっぱい下げないで下さい。スカリファイヤ爪上部とドロバーが干渉し、ドロバを破損させます。
- 9) カuttingエッジボルトを規定トルク以上で締めないで下さい。ボルトは規定トルク以上で締めると伸びてしまい、折損しやすくなります。
- 10) エアタンクのドレインより凝水を排出することを忘れないで下さい。寒冷時、凝水がブレーキパイプライン内で凍結し制動不能となることがあるので非常に危険です。
- 11) 後輪のチェーンを弛めに張らないで下さい。リヤタイヤは2本あり間隔が狭いのでチェーンとチェーンが当り切損します。

10. 除雪ドーザ、スノーローダ(履帯式、車輪式)

- 1) 降雪時エンジンを始動させる場合必ずエアークリーナの廻りの雪を除去して下さい。エンジンが雪をすい込むと、始動は悪くノッキング現象を起すと同時に、エアークリーナ、エレメントの機能が急即低下し、定期整備に関係なく交換を早めます。
- 2) 作業終了後屋外駐車は必ず作業装置及び足廻りの雪を除去して下さい。
 - (イ) ホイールローダの場合はブラウ装置が凍結し動かなくなります。
 - (ロ) ブルドーザの場合はキャリヤローラが凍結し動かなくなります。

11. 除雪ドーザ、スノーローダ(車輪式)

- 1) 作業終了後は必ずエアータンクのドレインを抜いて下さい。エアータンク内に水がたまるとブレーキの効きが悪くなり危険です。
- 2) 長方形型ソリ装着車のVブラウ又はアングリングブラウは地上に負荷を掛けたまま急旋回することは避けて下さい(円板回転式除く)。ソリの側面に大きな抵抗が掛り取付け部より破損します。従ってこの場合は、作業装置は地上より、約30mm程度上げてから旋回して下さい。
- 3) 回送中急ブレーキを必要とする場合は右側のブレーキを使用して下さい。左側はクラッチブレーキ連動式である為踏み込んだ時はクラッチが切れてから、ブレーキが掛る構造となっています。従って瞬ぱつ制動は右側ブレーキより遅れます。

12. 凍結防止剤散布車

- 1) アイドリング時に散布機構の試運転を実施して下さい。作業時は気温が低く、ベルトコンベヤ

の初動が遅れることが有ります。作業前に充分アイドルリングしても、作動油はタンク→ポンプ→タンクの間が温められるだけで、各配管内の作動油は冷えきって居り、従って粘度も高く流れが悪く初回の作動は応答の遅れがあります。

1 回作動後は温められた作動油が配管内を流れる為流れが早く 2 回目以後の作動は正常に応答します。従ってアイドルリング時、円盤をテスト作動し、ベルトコンベヤも手動ダイヤルを 5 目盛以上にしてスイッチ ON し 10~30cm 程作動して下さい。こうして一度作動してから実作業に出動すれば実作業時には円滑に作動します。

- 2) コンベヤ手動ダイヤルの 0 (ゼロ) 戻しを忘れないで下さい。上記テスト作動後には、手動ダイヤルは必ず 0 (ゼロ) 位置にパチンと音の出るところ迄戻して下さい。戻し忘れると自動散布が出来ません。
- 3) コントロールアンプのキースイッチは正確に押して下さい。正確に押されていない場合キースイッチのランプが部分的にしか点灯しません。正確に押してもランプが点灯しない場合はヒューズ及びコネクターを点検して下さい。
- 4) 長時間の回送や作業終了格納時には、必ずコントロールアンプの電源は切して下さい。切り忘れると、バッテリーの電圧が低下し、散布装置が正確に働かなくなります。
- 5) コンベヤ手動ダイヤルにて作動時には必ずゲートを開いて下さい。必ずゲートの位置を確認して、コンベヤを作動して下さい。ゲートを閉じたままコンベヤを作動させるとベルトがいたみます。自動散布の場合はゲートも自動に開く為特別確認の必要は有りません。
- 6) ホッパ内に散布剤を長期間放置しないで下さい。ホッパ内に散布剤を長期間放置すると散布機は固まり作業不能になります。もし誤って散布剤をホッパ内で固めてしまった場合は湯、水で流し出して下さい。
- 7) 水洗、給油を頻繁に実施して下さい。この散布車で今迄起きた故障の多くは錆付きによる故障です。各部の水洗及び給油はいくらやっても充分すぎるということはありません。面倒でも念入りに実施して下さい。

時々、シャーシの下へ入ってコンベヤの底板を開き、中に溜った散布剤を除去し、水洗して下さい。コンベヤチェーンは適宜、点滴給油をすると共に、時々はグリースを塗布して下さい。特に春の作業終了時には充分すぎる程グリースを塗布して下さい。

- 8) 作動油補充時、ゴミに注意して下さい。作動油内にゴミが混入すると、油圧弁に詰って圧力低下が生じ作動不良を起します。
- 9) 配線、配管は傷つけない様に注意して下さい。たった一つの配線、配管の損傷でも、作動不良になります。
- 10) ハンティングや応答の遅れが発生した場合は修理工場又はメーカーに連絡し指示に従って下さい。
(ハンティングとは次のことを云います) コンベヤの場合=コンベヤがスムーズに回転せず、減速機部にあるコンベヤ駆動チェーンがダツ、ダツ、ダツ、ガチャ、ガチャと大きな音を出します。
散布円盤の場合=1 回転に極端に速いところと遅いところが出てフラ、フラと回ったり、回

ったと思うとすぐ止まる様な状態になります。

ゲートの場合＝ゲートが所定の位置に停まらずこきざみに上下動を繰り返します。



社団法人 日本建設機械化協会北陸支部

〒950-0965

新潟市新光町6-1 興和ビル9F

TEL : 025-280-0128

FAX : 025-280-0134

E-mail : jcmahoku@beige.ocn.ne.jp

[http : // www.niigata-net.or.jp/jcmahoku](http://www.niigata-net.or.jp/jcmahoku)